

丹波



関西丹波市郷友会会報

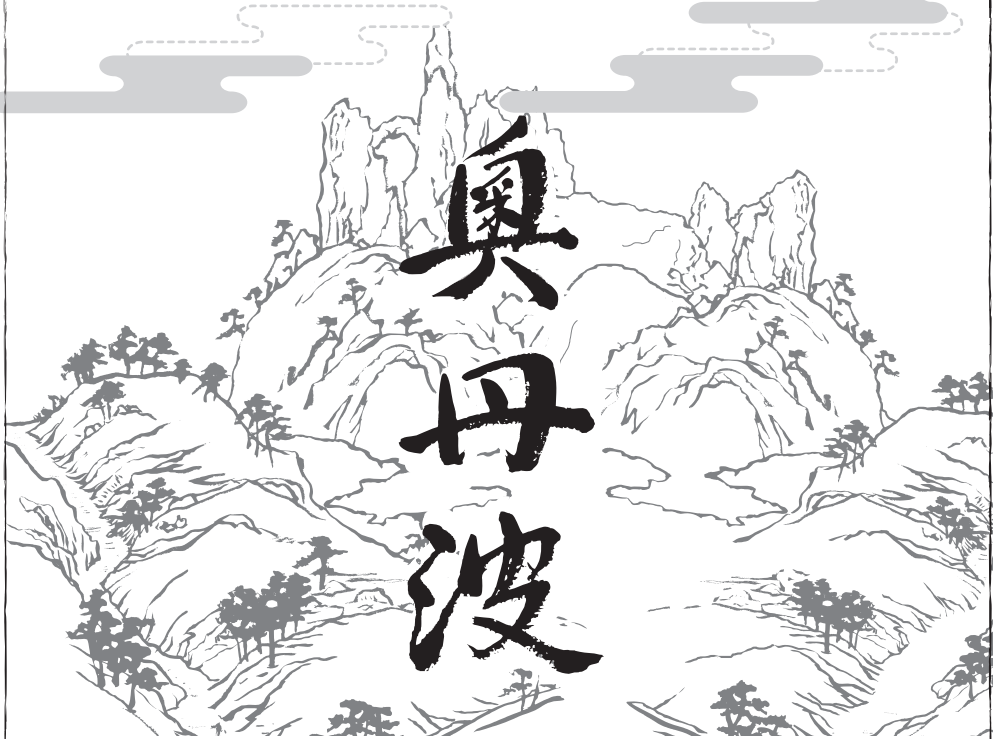
第6号 2021.11.1

奥丹波蔵元 山名酒造

当家は元々源氏の総大将、頼朝に付き従った関東武士で、室町時代に応仁の乱で京の都を騒がせた山名宗全の血筋。その後、一族内の争いを逃れて領地を離れ、春日町の興禅寺付近で船川姓に変えて潜んでいたが、一七二六年（享保元年）に現在の市島町上田の地に移り、元の山名姓に戻したのが遠祖の始まりと伝わります。

蔵にある古文書のひとつに、天皇が即位した大嘗祭に奉納米を献上し、宮中から賜った「宝船」を描いたものがあります。カミダ（上田）は神田の呼称が転じたとも言われ、このように稲作に恵まれた環境のもと代々酒造りを生業にして十一代目、平成二十八年で創業三百年となりました。

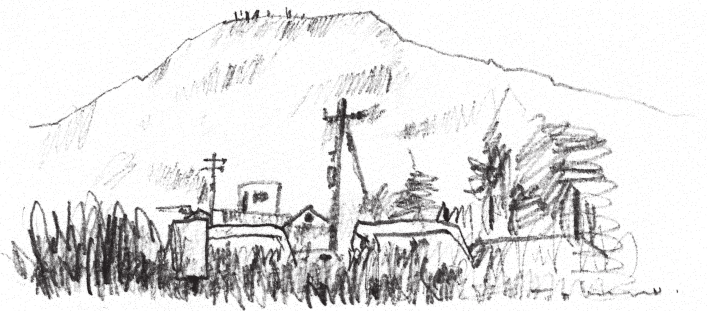
江戸時代までは「千歳」、明治維新になり「萬（万）歳」、そして平成に入って「奥丹波」と酒銘を変えて仕込み続けて参りました。



たんぽ

関西丹波市郷友会会報

第6号



目 次

若いメンバーに期待	有田秀雄	3
20年度総会を中止	事務局	4
会員だより		6
COVID-19、その始まり	芦田敬一	13
ワクチン接種と今後の動向	足立智和	15
自然を愛し、自然に学び50年	梅垣守明	16
仏像彫刻に魅せられる	安本義正	19
先人に学ぶ私の健康法	余田和幸	22
高校時代の経験が今に	吉居寛子	24
「平治」より源氏の重臣	芦田敬一	29
農漁村の活性化めざす	八木信行	32
丹波を考古楽散歩〈下〉	藤田 淳	35
丹波の酒造場で働く	フィリッピ・ボゲンポーエル	39
異国の教壇で自前の研修〈上〉	石田リカ	42
「湿度」求めて世界の旅に	神崎悠哉	46

商社・大学・地域ボランティア	近藤 徹	49
丹波に育まれた感性	野村和弘	53
丹波を離れて60年	赤松凱彦	58
関西人の見た仙台	山口泰男	61
創建千年迎える柏原八幡宮	丹波新聞	64
「多文化共生」を理念に	上 高子	68
「峠の茶屋でひと休み」	石橋順子	71
薬物乱用は繰り返される	藤田 恒	74
ホワイトハウスに立ち入る	山口直樹	77
一宮神社など六社の「丹波竹田祭」	吉見徳政	81
編集後記		83
広告目次		85
表紙 一宮神社「竹田祭」		
題 字 (表紙・中扉)	荻野丹雪	
写 真 (表 紙)	吉見富徳	
カ ッ ト (中扉ほか)	奥野隆之	

若いメンバーに期待

関西丹波市郷友会 会長 有田 秀雄



2019年(令和元年)12月18日(日)。何の日であったか御存知ですか?関西丹波市郷友会120周年記念総会が丹波市で開催された日である。その日、私は「継続は力なり」と120年の継続の凄さ、重みを述べました。総会は盛大に行なわれ、ほっとした気持ちでした。その2週間後、中国武漢市で発生した新型コロナウイルスが世界中をゆるがすパンデミック

ク(世界的大流行)となるとは、誰しも思わなかった事でしょう。今から思えば絶好調なインバウンド(訪日外国旅行者/訪日旅行)に対し好事魔多しである。しかし、本会の記念総会を無事終えた事は、正に強運であったと言えるでしょう。「人は心が変われば行動が変わる、人格が変われば運命が変わる、運命が変われば人生が変わる」事を思い出しました。無事に大役を終えたのは役員、会員、関係者の皆様の努力とご協力の御陰を思うと胸が一杯になりました。

具体的な政治をテーマにした討論や解説などの教育をすべきです。また、忙しい教師の負担軽減の為の部活分離を積極的に推進する必要がある。女の人も男の人も、すべての人がお互いの人権を尊重し支え合える全員参加型の社会、共生社会を目指したい。最近、新聞の社説・論評・コラム・エッセーなどを読むと共感と勇気を感じる。さて、「他人を幸福にすることは、一番確かな幸福である。」と言いますが、誠に同感であります。私の座右の銘は、「人間万事塞翁が馬」である。

終わりに、約7年間にわたり本会の代表として丹波市に在住する保育・幼稚園児から小中高校生までの健全育成を願い、力強く前進して来ましたが、これからは若い新しいメンバーの活躍に期待することと致しました。これまでの皆様のご支援に深く感謝し、本会が益々発展することを願い筆を置くことと致します。

20年度総会を中止

事務局より

事務局を移転

従来の事務局担当であった横井尚浩さんが2021年3月末日をもってサンキン株式会社を退職される事になり、サンキンで事務局を継続することができなくなりました。種々検討の結果、役員会にて次の通り新事務局が決定しました。

新事務局

住所 〒669-3309
丹波市柏原町柏原1747番地2

氏名 山中 邦雄

電話 0795-72-3339

携帯 090-3623-6903

勤務先 (柏原自治会館)

電話 0795-73-0198

FAX 0795-73-0198

2020年度総会は、7月開催の役員会にて中止を決定しました。

理由

- ① 高齢者が多く合唱団も含め、コロナウィルス感染を防ぐのが難しい
- ② 既に7月中旬で準備期間が少ない
- ③ 宝塚ホテルからも感染防止の観点から食事や席に制限があり開催が難しい

これに伴い次の事項を実施して総会に代えました。

- ① 9月中旬までに総会中止の案内状を会員に送付する
- ② 総会での決議事項である役員改選案について書面決議に代える
- ③ 同じく2019年度収支報告についても書面決議に代える

この結果それぞれの議案は会員136名中賛成77名反対0名で承認可決されました。

2020年度の支援事業を取りやめ

本支援事業については、同年7月11日開催の役員会にて取りやめを決定しました。

理由

① 総会が中止のため、表彰等の場を設けられない

② 募集などの準備時間が足りない

2021年度総会について

新型コロナウイルス感染の先行きを見ながら開催の可否を検討中です。

一般会計 収支報告書

2020年1月1日から2020年12月31日まで

関西丹波市郷友会

支 出		収 入	
第109回郷友会総会費用			
賞状・盾代（ディーネット）	329,874		
集合写真代（写真のオカバヤシ）	93,665		
送迎バス代（丸茂自動車）	39,600		
諸経費（その他）	16,690		
2020年度郷友会総会費用			
書類決議用 資料送料等	36,775		
小 計	516,604	小 計	0
会報関連			
会報第5号 800冊(丹波新聞社)	470,800	広告代	475,000
会報カット描画代	10,000		
小 計	480,800	小 計	475,000
その他			
役員会費用	78,279	年会費	393,490
通信費	139,704	預金利息	7
広告代(丹波新聞社、FM 805たんば他)	265,000		
諸経費	12,518		
振込手数料	11,990		
小 計	507,491	小 計	393,497
合 計	1,504,895	合 計	868,497
次回繰越	533,115	前回繰越	1,169,513
総 合 計	2,038,010	総 合 計	2,038,010

会員だより

会員の方々に、近況についてお知らせ
頂きました。到着順に掲載します。

(敬称略)

☆山名純吾 (丹波市市島町)

今、一番楽しみなのは、久方振りに鯉のぼりを上げること。以前、一昔前は、子どものためでしたが、今度は、孫のため。というか、単に好きなんです。大空に泳ぐあの姿を眺めるのが。(3/24)

☆足立礼子 (大阪市)

介護施設でお世話になっており、クラスタが発生して、PCR検査を3回受けました。今は落ち着いております。

(3/24)

☆蘆田雄作 (丹波市青垣町)

俳句を楽しんで作っています。

(3/24)

☆岸名経夫 (丹波市柏原町)

コロナ禍のせいで、逼塞生活を強いられている現状ですが、妻との過ごし方を今一度反省もし、新しい展望を見つけようと考え、話し合う機会を増やそうと努めています。若返りの大きな転機になるでしょうか。又、老齢のため運動不足解消のため「丹波の森公苑」で妻と二人で毎日散歩を心がけています。「先がける白き「すずめ」の後追いて 負けじと迫る老いの一徹」(3/29)

☆足立 敏 (川西市)

48年間勤めた会社を退職して6年が経ち現在72歳。昨年来、コロナ禍や猛暑などで運動不足から体調を崩しましたが、今は何とかポチポチやっています。天気の良い日は、ウォーキングを続け、健康と体力の維持を図る毎日です。(3/31)

☆石川憲幸 (丹波市春日町)

本年6月で県議活動23年目に入りますが、災害対応や医療センター開院等重要案件が続き、多忙な毎日です。故郷丹波市の発展を願っていたにいたっている郷友会の皆様のご厚情に心から感謝致しております。(3/31)

☆廣瀬紀明 (西宮市)

昨年の緊急事態宣言の発令中のゴールデンウィークの最中に不整脈がひどくなり、ペースメーカーの植え込み手術を行ないました。その後の検診では順調に作

動しているとの診断で、ほぼ以前の生活に戻っています。絵を描いているが、昨年は展覧会が次々と中止され、発表のチャンスが閉ざされました。そうなるモチベーションも低下してくることがひしひしと感じられ、なんとかそれを押し戻しながら制作をやっているところです。今年は昨年出来なかった個展(5月)をやりたいと準備中です。(3/31)

☆小寺章允(高槻市)

いつもお世話になりありがとうございます。1年以上続くコロナ禍で、旅行など遠方へ出かけることはできませんが、近辺の山を歩いたり、ゴルフに行ったり、1〜2ヶ月に一度は丹波に帰って、空気が変わった我が家の風通しや少しの畑の草刈りなどをして、一応元気にしております。(4/12)

☆余田正博(丹波市市島町)

丹波OB大学を、この春終了し、引き続き大学院へ進学しています。兵庫県高齢者放送大学(ラジオカレッジ)の丹波支部の会長を拝命しています。県下19支部あり、学生数約2000名です。コロナ禍の中で学ぶ高齢者の機会としては最高のものだと思っています。今は、スマホでいつでも講義を聴くことができ、一度聴いてみて下さい。(4/17)

☆亀井 剛(丹波市柏原町)

ご苦労様です。コロナ、コロナの拡大中ですが、日々農作業と丹波市国際交流にと頑張っております。一日も早いワクチン接種とコロナの終息を願っております。(4/20)

☆山川茂則(丹波市春日町)

まだ現役にて仕事を続けておりますが、趣味として「山を楽しく歩こうカイ」

という山登りの会に参加しています。毎月一回(2・8月は休み)兵庫100山の登山を楽しんでいます。緊急事態宣言が発令された時は中止を余儀なくされましたが、3月より再開して久しぶりの山の空気を吸い、木々や草花に癒やされながら足を進めることは非常に健康にプラスになります。今後も体力気力の続く限り挑戦をしたいと思っています。(4/20)

☆田中なほみ(丹波市氷上町)

「日本の童謡唱歌をひろめる会」丹波支部はグループごとに集い楽しく歌ったりおしゃべりしたりする活動を12年続けて来ました。しかし、昨年3月末より、新型コロナウイルス感染予防のため休んでいます。会員の皆さまから「早く皆さんと一緒に大きな声で歌いたい!!」との声が寄せられています。せっかく築いた皆さんとの絆を大切にしたい!の思いから、

動画や音楽をラインで配信しています。高齢者がほとんどですが、スマホを上手に使っていただき、つながりを感じています。一日も早い収束を祈るばかりです。
(4/26)

☆中川真貴 (丹波市山南町)

コロナ禍の為に丹波滞在は、15ヶ月になりますが、欧州より平和で安全な丹波で、95歳になる母親孝行もできて、良かったと、その点は感謝しております。今年4月に、芸術書専門の老舗求龍堂出版から「はじめてのモネ」「はじめてのルノワール」2冊の新冊を出版させていただきました(9頁参照)。美術にあまり接してこれなかった方々にも楽しく読んでいただける内容にもなっています。皆様との再会を楽しみにしています。
丹波にて。(5/1)

☆足立直正 (川西市)

周りの山々の新緑を眺めていますと、心穏やかになってきます。そして、今日も一日頑張ろうという気になってきます。近くの貸農園24㎡はトマト、ナス、キュウリ、オクラ、ホウレンソウ、ピーマン、イチゴ、サニーレタスで埋まりました。やれやれです。また、家の近くに多田神社、多太神社、九頭大明神等々点在しています。ウォーキングのコースにし、お参りしています。一日も早くコロナが収まりますように、と願う日々です。
(5/10)

☆山口直樹 (丹波市氷上町)

コロナ、コロナの日々も、もう1年以上続いていきます。何事にも我慢、我慢の上です。社会的な動物である人類は、群れて、集団活動をする生き物です。その人類に、群れてはいけない、集まってはいけないと言われ、言われることに理

解を示して、もう少しだ、もう少しの辛抱だと思って今日まで来ました。皆様も同じだと思えます。強力な変異株が出てきて、いつになったら、コロナが終息するのかと、先の見通しが見えないこの頃です。ワクチンの接種が、実に待ち遠しいです。元来、あちこちに行くのが大好きな自分にとって、コロナで自由に動けない日々は実につらいです。コロナの話が、昔話で出来る日が来ることを切に望んでいます。(5/10)

☆梅澤由起 (豊中市)

いつも有り難うございます。新型コロナウィルスの影響は、まだまだ続きそうです。大学生の娘はオンライン授業、部活、試合の中止など、色々制限があって大変そうです。私自身も講師の仕事に少なからず影響があります。こういった環境はコントロールできませんが、自分をコントロールしながら、できる事は何

「ルノワール」・「モネ」 美術書2冊を初出版

山南出身・伊在住
中川真貴さん 芸術書専門出版社から

山南町出身の西洋美術史研究家、中川真貴さん(イタリア・フィレンツェ在住)が、印象派を代表するフランスの画家、ルノワールとモネの作品と生涯を解説した著書「はじめのルノワール」と「はじめのモネ」を出版した。芸術専門出版社「求龍堂(東京都)」の名画シリーズ「色彩飛行」の創刊号。本格的な美術書ながら、ストーリー性を軸に、誰にでも分かりやすく楽しめる内容を目指した。中川さんは「絵にあまり触れたことがない人にも親しんでもらえ、多くの作品集に触れてきた人には、再発見があると思います」と話している。(古西 純)

“色別”の新鮮なアプローチ

いずれもB5判128頁。作品を青、赤、黄、緑、家にとってそれぞれがどんな色だったのかについて、鮮やかなアプローチで、画でも深く考察している。



初の著書を2冊同時出版した中川さん=山南町谷川で

ルノワールとモネは、19世紀後半の美術界に革命を起こした「印象派」の画家。それまで認められていなかった戸外制作を行い、光と大気を色彩で表そうとした印象派の画家たちについて、交友関係や社会情勢を含めて

日本に滞在中で、その期間を生かして約1年がかりで書き上げた。

多角的に取り上げた。中川さんは「認められなかった時代に、仲間同士で助け合い、切磋琢磨して生き抜いたことを伝えたい」と話す。また作品に登場するモデルの服装から、ファッションの流行や社会情勢を読み解くなど、作品の時代背景が分かるよう工夫している。

中川さんは、1993年からフィレンツェに住み、芸術イベントの企画を主に手掛けるフリーランスのキュレーターとして活動。絵画が描かれた場所を実際に訪れてきたことや、欧州の文化を長年体感してきたことが、画家の思いに近づくことに役立ったという。コロナ禍の影響で、昨年か



中川さんの著書「はじめのルノワール」と「はじめのモネ」

(中川真貴さん 会員日より参照)

か、を考え、このピンチをチャンスに変えられる様、日々動いています。大変な時ですが、プラスに捉えて頑張ってください。 (5/11)

☆山下文隆 (吹田市)

故郷を出てから60有余年、今年で傘寿を迎える。高校を卒業して、一目散に前を向いて走って来た人生でしたが、困難だった時は故郷を思い出し頑張って来られたと思っっている。年を経る毎に昔を思い出し、同窓会での旧友との出逢いや郷友会での故郷情報にいやされている。郷友会の幹事の皆様には、お世話に感謝すると共に、大変だとは思いますが、たんばファンクの為にも頑張ってください。 (5/12)

☆上田正三 (神戸市)

本上田邸で、3月末からデザイナーの渡辺顕さんと妻で版画家のトモコさんが

暮らしはじめ、ヨガ教室も開いています (11頁参照)。私は、邸内の離れ屋をワンルームとラウンジに改装し、1週間置きに、神戸と丹波を行き来しています。(コロナ対策はばっちりして。) 本上田邸では、生まれて初めて喜寿の手習いで3食自炊しています! 渡辺夫妻とはオーナーとマネジャーの関係で楽しくやっています。また、機会があれば、皆さん遊びに来て下さい。 (5/15)

☆有田秀雄 (宝塚市)

先ず第一に毎日が「晴耕雨読」の日々を夢見ています。商売は、面白い、趣味は楽しいをモットー(信条)としていますが、3密(密閉・密集・密接)を避ける生活のため、庭のバラの花などの栽培で心がいやされ、楽しんでいきます。 (5/18)

☆仁藤欽嗣 (西宮市)

コロナ下で、巣ごもり生活が続く中、何か前向きに取り組めるものをと「iPad」を購入しました。様々なアプリを取り入れ、動画、ネット検索、ユーチューブ、電子書籍、写真の閲覧等を楽しんでいきます。iPhoneより画面が大きく快適です。付属のアップルペンシルの活用が当面の目標。頭と手指を使うので、認知症の予防にも役に立つと思っています。 (5/24)

☆足立秀幸 (三田市)

芦田様、ご連絡ありがとうございます。一年余で未だ収束しないコロナ禍で、弊社のような自営業者は、休業要請の連続で、大変厳しい日々を送っています。一方で、ポストコロナに向けての事業再構築などのコロナ対策の施策も拡充されてきており、この機会に新時代での生き残りのため、もう一踏ん張り、80歳まで

明治の旧家でヨガ教室

春日町棚原の渡辺夫妻

自宅兼ねる 柏原から移り住む



明治時代建築の旧家に入居し、ヨガに取り組む渡辺さん夫妻＝春日町棚原で

開いている。

住人が家屋を管理しながら、地域にもイベントなどで開放する「住み開かれた」とほほ笑んでいき」をコンセプトにする。

トモコさんは「アトリエ

同住宅は近年、空き家に近い状態になっており、理解がある人に貸したいと、所有者の上田正三さん(77)＝神戸市東灘区、が、知り合いのトモコさん(77)＝神戸市東灘区、に貸していたが、3年前トモコさんは、版画家、頭さんはウェブデザインやカメラマンなどの顔を持つ。

渡辺さん夫妻は2012年、東京から丹波市に移住した。教室の問い合わせは頭さん(090・8149・8681)。

(上田正三さん 会員日より参照)

明治時代の家屋を修復した春日町棚原の旧家に、ヨガ教室「トモ・ヨモコさん(50)夫妻が自

した静かな和室で講座をにしていきたい」と話し、

「現役」を続けられたらと思っております。同郷の皆さんとの交流が復活することを心より願っております。(5/27)

☆野村忠利(丹波篠山市)

最近では、インド型変異ウイルスが窺われる今日、自分が感染しない様に注意する事により、人と接する機会も減り、人との関わり方等、昔の生活と比べると人間の情というものが無くなった様に思われる。(5/31)

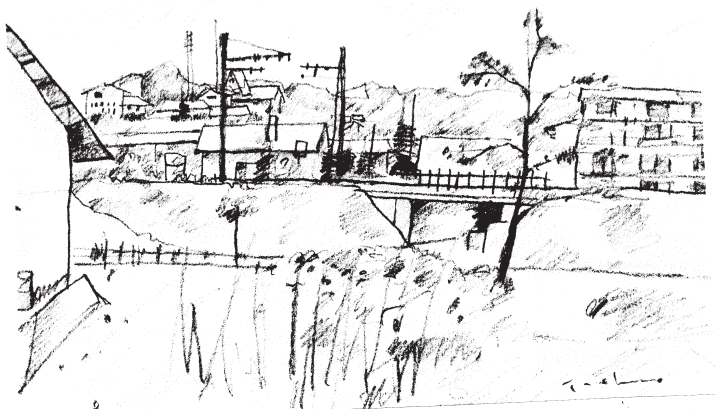
☆上田雅春(奈良県)

丹波を離れて50余年。この中で最大の変化は、何と云っても、昨年からのコロナ対策の影響で、当たり前のようにしていた通勤・通学や旅行・観劇などが、「ソーシャル・ディスタンス」という耳慣れない言葉に振り回され、世の中が一変してしまったことです。それでも子供や孫たちは、頑張って元気に毎日を過ご

してくれている。私は、昨年発行された「たんば」第五号に今までの事を書かせていただいた。今年は、コロナワクチンが浸透するまで、おとなしくしています。(5/31)

☆大槻佐知子(丹波市春日町)

色々な、総会、会議、イベントが中止になる中、書道教室はおしゃべりしなくてよく、密を避け平常通り開催できております。ただ、出品する展覧会が中止になり残念です。趣味の山登りも、近郊の丹波の山ならと、月一回、ポツポツ登っています。フレイルにならないように。(5/31)



COVID-19、その始まり

全世界的なパンデミックに

常任理事 芦田敬一

令和2年（2020年）1月は令和になって始めての正月です。1月24日は中国の正月にあたる春節です。テレビでは、中国武漢のバスターミナルでの、多くの帰省客が映し出されました。そして、武漢の海鮮市場を中心に流行していた新型コロナウイルス感染症が、中国全土に拡散される危険性が訴えられていました。

その感染報告は1月16日が最初であり、当初は散発的でした。1月28日に閣議でこの新型コロナウイルス感染症を指定感染症にすることが決められています。下船乗客で感染が確認された大型クルーズ船、ダイヤモンド・プリンセス号

が、2月3日に横浜港に到着しました。ここから、毎日、何十人単位の感染者が、順次国内の病院に収容されました。テレビは横浜港に釘付けです。結局、乗客、乗員3711人のうち感染者712人、死亡者13人という惨事です。

ウイルスは小さく電子顕微鏡でしか見えなく、自分の遺伝子とそれを包む膜よりなり、増殖は入り込んだ細胞の機構を使用します。ヒトに感染するコロナウイルスは7種類が知られています。そのうち4種類は一般的な感冒の原因の15%をしめるとされています。それ以外はSARSコロナウイルス（重症急性呼吸

器症候群）、MERSコロナウイルス（中東呼吸器症候群）、そして、今回のCOVID-19ウイルスです。

このコロナ感染症では、無症状、味覚障害、発熱、感冒様症状、肺炎などがあります。すなわち、無症状、軽症そして重篤な症状から死に至ることがあります。また、発症2日前の無症状でも感染力があります。従って、症状がなくても、感染していたり、感染させることがあります。

2月7日に帰国者接触者相談センターを各保健所に設置して、最終診断につながるPCR検査を保健所経由で対応にあたりました。しかし、当時はPCR検査の検査能力が小さく、検査になかなか繋がらないという問題が生じています。

治療薬としては、エボラ出血熱用に開発されたレムデシベルが、5月7日には特別承認制度で我国でも使用されるようになりました。抗インフルエンザ薬のア



丹波市立看護専門学校体育館で行われている
集団接種（丹波新聞社提供）

ビガンも適応外使用がなされています。また、様々な薬剤の有効性が使用検討されています。そのあとは、酸素吸入、人工呼吸器での呼吸補助、そして体外式膜型人工肺のエクモです。

3月1日には、3密（換気の悪い密閉空間、多数の人の集まる密集場所、間近

で会話や発声の密接場所）をさけるように提案されました。3月2日には政府要請で、全国の小、中、高校が休校になりました。また、大学や一部の学校の授業は家庭でのリモート形式で、行うようになりました。しかし、この頃には、ヨーロッパ卒業旅行後に学生のクラスターが

散見されています。また、スポーツ、音楽、演劇などのイベントや公演は中止です。この年開催予定だったオリンピックも1年延期が決まりました。3月29日には、ドリフターズの人々は、ショックを受けこの病気を身近に感じました。

4月7日の緊急事態宣言（東京、神奈川、埼玉、千葉、大阪、兵庫、福岡の7都府県）は4月16日には全国に拡大されました。不要不急の外出自粛、また、様々な店舗への休業や、リモートワークの要請です。街

の人通りも少なく、通勤電車はがらがらです。解除は、5月14日に大部分でしたが、大阪、京都、兵庫の3府県は5月21日、5月25日には首都圏1都3県と北海道です。6月14日より全ての学校が再開されました。

我が国では、一旦は収束した状態でしたが、令和3年になってからも人流の回復と共に第2波から第5波まで繰り返し感染が広がり、9月末現在で全世界では、累計2億人以上、死亡500万人弱です。待たれていたワクチンの開発で、ようやく明かりが見えては来ましたが。

新型コロナウイルス感染症は令和元年（2019年）12月8日に中国で最初の感染者があったと言われています。1918年に始まったインフルエンザのスペイン風邪以来の、全世界を巻き込むパンデミックになりました。完全終息には、なお数年かかるとの予測もあります。

（青垣町出身、尼崎市在住）

ワクチン接種と今後の動向

丹波新聞記者 足立智和

新型コロナウイルスの感染流行は丹波地域にも影を落とした。昨年2月に初めて市内で感染者が確認され、丹波保健所管内（丹波市、丹波篠山市）で494人の感染を確認（9月28日時点）した。全

国の感染者数同様に、丹波地域でも7月に始まった第5波が最大の感染者数となり、8月はひと月で148人の感染を確認。9月も89人の感染が分かった。ワクチン接種が高齢者から進んだこともあり、「第5波」では若い世代の感染者が大半を占めたが、ほとんどが軽症だった。丹波市のワクチン接種は、集団接種が丹波市立看護専門学校体育館で5月18日から始まり、一部開業医で6月下旬から個別接種が始まった。市は、集団接種と

個別接種を合わせ週あたり3000人以上の接種ができる体制を取ったが、国のワクチン供給の遅れに振り回され、希望量が届かずに、10月中に接種を終えることができなかった。

1回目の接種率は66・43%、2回目接種率は51・52%（9月21日現在）と、いずれも全県の平均を上回っている。市は最終的な接種率は85%を見込む。対象市民（12歳以上）は、6万3235人。都市部では、「第5波」で病床が足りなくなる医療崩壊が生じ、感染が判明したものの医療にかかれず命を落とす人が出るといった不幸なケースがあったが、丹波地域では、独自の「丹波方式」により、感染が分かるとすぐ医療につなぐ、

優れた仕組みが作られた。

検査で陽性が分かると、丹波保健所の指示で、感染者は兵庫医大ささやま医療センター（丹波篠山市）を受診し、重症化の危険度をはかる検査を受けた。丹波以外の地域では、保健所の職員による問診のみで、入院、宿泊療養、自宅療養が決まったが、丹波地域では医師が診察。血液検査やCT撮影の画像などにより、リスクの高い人が宿泊療養になり、その後急変するといった事態を回避した。

同病院は早くから抗体カクテル療法にも取り組んでおり、感染が分かってから早い段階で同療法を受け、重症化を抑えた上で宿泊療養に移る効率的なベッド運用（19床）がなされた。ベッドの回転が早く、入院待ちも数日で済んだ。

県立丹波医療センターは、中等症、重症患者を引き受けた。コロナ患者用ベッドは17床を確保。主に、阪神間からオーバーフローした患者の治療に当たった。

自然を愛し、自然に学び50年

丹波自然友の会の歩み

丹波自然友の会会長 梅垣守明

本会は昭和四十三年三月（一九六八年）に発足し、平成三十年（二〇一八年）で発足五十周年を迎えましたが、歴史をたどると、その起源はさらに二十年前に遡ります。昭和二十三年四月二十七日の採集会記録に次のような記述があります。

自然科学方面の学問が観察から出発してゆくの常道なれば、水上郡下の理科教育が郷土の自然観察から離れては成り立たぬものと考えられます。最近二回の研究採集会も実はその点から始めたわけです。然し、単に参加した者のみが、その日学んだにとどまらず、

その日大勢の参加者がみつけ、考察し、討論しあつた要点を記録して、一般にも見て戴き、又逐次残していく記録から郷土の完全な自然誌を編むことも大きな意義のあることと考えて、ここに第一号を送る次第です。《中略》水上郡民の生活がこの郷土の自然の基盤の上に立つ以上、凡ての郷土の人々が正しい郷土に対する自然観をもつていただきたい。水上の気象・土壌・山地・平地・沼・川・水田・畑・植物・昆虫・動物などについて、広くまた深く知って日常生活をより科学的にしたい。そのもとを記録してゆくの



発足50周年記念式典（2018年12月、水上住民センターで）

最終の目的であります。(水上郡の自然研究、第一号)

つまり昭和二十三年に、郷土の人々に

郷土に対する正しい自然観を持ってほしいとの思いから自然研究は始まりました。その精神・目的は七十年を経た今も「丹波自然友の会」の活動として引き継がれています。

★「丹波自然友の会」の発足

・昭和四十三年、兵庫県生物学会総会を

柏原高等学校で開催が契機

・水上郡の教員の研究グループを母体として発足

・三月三十一日(日)に第一回例会を実施

★活動の概要

・総会 毎年二月十八日(柏原厄除け大

祭当日)

・例会 毎月 原則として第三土曜日

年一回は丹波以外の一泊研修

・会報 「丹波の自然」 毎月の例会後発行

・会員 発足当時二十三名(現在百名)

・研究発表 二月の総会後と十二月の年末懇談会の年二回(会員の発表)

★特集号、研究誌

・水上の自然 第一集(一九四九年)

・水上の自然 第二集(一九五三年)

・水上郡昆虫目録 山本義丸著

(一九五八年)

・ひかみ三号 妙高山特集(一九六一年)

・ひかみ七号 粟鹿山特集(一九六三年)

・ひかみ八号 佐治川特集(一九六七年)

・ひかみ九号 竹田川の自然

(一九七七年)

・ひかみ十号 水上郡下の社寺林

(一九八一年)

・ひかみ十一号 私の植物スケッチ

衣川荘太郎氏

・青垣の自然(一九八八年)

・丹波草木誌 細見末雄著(一九九二年)

・丹波の自然 神戸新聞総合出版

センター発行(一九九五年)

・丹波の自然 発足三十周年記念

(一九九九年) 故 松山確郎先生

・細見末 雄先生 追悼

・五十年のあゆみ 発足五十周年記念

(二〇一九年)

★賞、感謝状

・兵庫県緑化功労者感謝状(一九九四年)

・兵庫県知事表彰(一九九四年)

・兵庫県ともしび賞(一九九五年)

・環境庁長官賞(一九九八年)

・水上郡教 育委員会感謝状(一九九九年)

・なかしんふるさと賞(一九九九年)

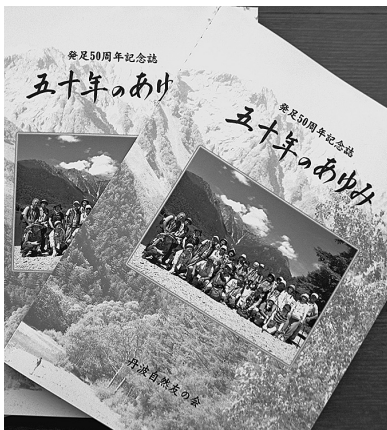
本会が半世紀にわたって活動が続けてこられたのは、素晴らしい先人のリーダーシップはもとより、後に続いた先輩方の努力の賜物です。

「丹波自然友の会」の活動の内容は「自然を愛し、自然に学ぶ」を基本姿勢としています。丹波の自然環境や動植物の生態調査にかかる活動と記録を継続・充実させることを目的に、月一回の例会を積み重ねています。

月に一度の定例の観察会には、二十名〜三十名の参加者があります。郷土には生物多様性に富んだ豊かな環境があります。本州で最も低い中央分水界の「水分かれ」を中心とした『水上回廊』と称するこの丹波の自然の豊かさ・不思議さ・素晴らしさを発見する取り組みを今後も継続していくつもりです。(柏原町在住)



尾瀬訪問例会（2019年6月）



50周年記念誌を発行



黒井城跡の樹木名札付け（2020年）

仏像彫刻に魅せられる

大石順教尼のご縁で

京都文教短期大学名誉教授・元学長 安本義正



一昨年（2019・3）サラリーマン生活を終わりました。最初の13年間は大阪大学で応用物理学専攻、音響科学講座に所属したこともあって、休日になるとよく寺院を訪ねて鐘の音に耳を傾けていました。外国の寺院にも足を延ばしたりもしました。年齢を重ねるにつれて仏教に

も関心が深まり、同時に寺院になくてもならない仏像にも興味関心を持つようになりました。さらには、人生や生き方に興味関心が湧き、人間教育の世界に身をおきたいと思うようになりました。偶然にも仏教系の京都文教短期大学に職を得ることになり、私にとっては、まさに天職に転職した感じで、第2の勤務先では、大いに充実した36年間の教員生活でした。

あちこちの寺院を訪ねたときは、いつもその寺院のご本尊の仏像に魅せられ感動していましたが、木造の本尊がどのようにな彫られているのかと、不思議に思っ

ていました。その素晴らしさを真に実感・理解するためにも自分でも実際に彫ってみたいという漠然とした願望を持っていました。そんなある時、仏像彫刻に有難いご縁がありました。

両腕を無くされながらも、一生を障がい者の自立のためにご尽力された大石順教尼のことについてはご存じの方もいらっしゃるかと思いますが、その順教尼没後50年の記念事業で、十一面千手観音菩薩立像の造立が計画され、私もその呼びかけ人に名を連ねさせて頂きました。順教尼のお孫さんである大石晶教様の「若者たちに順教尼の生き方を伝えて欲しい」との強い願いもあり、その観音像が京都文教学園宇治キャンパスに奉納されることとなりました。

観音像造立には、仏師平杉法橋（仏師名）氏が中心となって彫り進められていました。当時学長であった私は、仏師の勧めにより、仏頭に置かれている十一



文教学園に奉納された十一面千手観音菩薩立像

面化仏の中の頂上化仏を彫らせていただくことになりました。人生初めての経験でした。一年半後に観音像は完成し、私の退職直前の3月に宇治キャンパスの仏間「最勝殿」に奉納されることになり、奉納式・開眼法要が執り行われました。

そのご縁で、平杉仏師のご指導を受けながら、退職1年前から仏像彫刻を始めることになりました。現在、新型コロナウイルス禍の中で巣ごもり生活をしながら、コロナの早い収束・終息を願って仏像彫刻に

仏頭など、部分的に彫って基本的に彫って基本的な技術を磨いていきます。用材は松、檜木、楠木などありますが、堅くもなく軟らかくもない楠木がよく用いられます。私の場合、半年ほどで以上の基本を無理矢理終えさせてもらい、退職後の5月から最初に取りかかったのが、阿弥陀如来立像でした。全体の高さは台座

没頭三昧の生活を楽しんでいきます。仏像彫刻といても簡単にはできるものではありません。最初から仏像一体を彫ることは難しく、基本に忠実に、手や足、実際に、手や足、

や光背などを入れると約50cmになります。仏像を彫る場合は「木取り」「荒取り」「小造り」「仕上げ」の過程に従って彫っていきますが、どの段階も、手抜きせず慎重に彫り進んでいかなければなりません。指導していただく仏師にいろいろと叱咤激励を受けながら、大きな怪我もしないで彫り進んできました。まず本体を彫り、次ぎに台座（蓮台とそり花など）、最後に光背です。この光背がまた私にとっては難しい透かし彫りの光背で、時間がかかり、全体の完成には1年以上かかりました。苦勞した分、完成したときは自分でも感動し、しばし喜びに



第1作目の阿弥陀如来立像

浸っていたのを覚えていきます。第2作目の地藏菩薩立像（全体の高さは26cm）は数ヶ月で完成しました。

これまで阿弥陀如来立像、地藏菩薩立像、釈迦如来座像、白衣観音菩薩を彫ってきました。今後は楽器を携えた楽器菩薩（音声菩薩）や力強い不動明王や金剛力士像なども彫ってみたいと思っています。勤務先が仏教系の大学でしたので、多少の仏教の世界のことも学ばせていただき、それが仏像彫刻にも大いに役立っているように思います。

平杉仏師からは「仏を彫るのではなく、木の中から仏様を出して差し上げる



地蔵菩薩立像

のです」とお聞きしました。私には到底そのような心境にはなれませんが、技術も持ち合わせていませんが、少しでもその境地に近づきたいと願っています。

私の故郷丹波市には、「丹波古刹十五ヶ寺霊場」がありますが、その中でとくに私の生まれ故郷氷上町に位置する6番札所の達身寺、7番札所高山寺、8番札所岩瀧寺や円通寺には是非とも訪れて、寺院に安置されている仏像にゆっくりと会いたいと願っています。とくに、達身寺には80体以上の仏像が宝物殿に納められていることから、造仏の工房（作業場）で、仏師の養成所だったのではないかと

の説もあり、さらに、興味深いことに、仏師快慶は丹波仏師で達身寺と深い関わりがあるとも言われていますので、達身寺は避けて通れません。本尊の阿弥

陀如来には是非とも会いたいと思っています。そして、いろんな仏像に直接会って観察力を養うと同時に仏像彫刻の技術も磨きたいと願っています。

今私は仏像彫刻の出来る有り難さを実感しています。そして、コロナにより当たり前の生活が当たり前でない昨今、有ることが難しいという「有難い」という言葉を噛みしめている今日この頃です。

（氷上町出身、京都市在住）



先人に学ぶ私の健康法

93才、元気に長寿を謳歌

元市島中学校長 余田和幸

71才3ヶ月で教壇に別れを告げて（60歳まで、公立中学校、その後は、私立中高等学校に勤務）より、人生百年時代に健康長寿を全うする為、歩くことは生きること、継続は力なり、と毎日午後3時半より、走る。（歩くより走るのは、足に体重が4倍かかり、足の骨と筋肉を鍛える。）8千歩のジョギングで、春は花と新緑、秋は紅葉、四季折々色なす、上り下り2千歩の山登りを、雨の日は雨具着用で一日も欠かさず、卒寿を過ぎた今も、93才の今日まで22年以上続けて居ります。

折しもコロナ禍、諸々の病原や毎日三

千個発生するというガン細胞に打ち勝つ免疫力を高める為、哲学者カントに学び、規則正しい生活に勝る健康法はないと、朝5時起床、夜9時就寝と生活リズムを守り、習慣的な運動そして、バランスのとれた三度の食事に意を注ぎ、栄養、特に生命を支える主役は植物であると、野菜不足にならぬよう、朝食を最も多くし、時間をかけて食べ、良質なタンパク質を摂取し、腹八分目に医者いらず、夜食はひかえめ、体重管理は健康の基本。入浴前に必ず測定。その日の体の動かし方で増減する体重を主食で加減する。背骨は健康の大黒柱、一直千金背筋を伸ばす為、

ジョギング途中中学校に立ち寄り鉄棒にぶら下がり大振りをする。
体は使わねば老化が進む。可能な限り体の各部を動かすこと。声も大切で、朝夕15分ずつ大声で仏壇でお経をあげて居ります。又、朝食前と夕食前には全身を動かす体操を欠かさず行なう。関ヶ原の合戦で石田三成に与力し、敗れ、八丈島に流された宇喜多秀家は、84才と異例の長命を保つことが出来たのは、少食と雑穀野菜魚肉を主とする食生活と、絶えず体を動かす畑仕事が理想的な養生法となつたのであることに学び、趣味と健康の為の農作業も、出来るだけ歩くことに意を注ぎ、耕運機（トラクター）は乗っているだけで歩かない）を駆使して耕し、可能な限り畑仕事で日光を浴びビタミンDを体内で作り、骨の強化に努めている。
人は、血管から老化し病気は血管からが9割という。運動により血管を若返らせ、朝の起床前と夕べの入浴時には、身



農作業も歩くことに意を注ぐ

体の各部を充分に撫で、地肌の血行を促すマッサージを欠かさずする。死因の4分の1は、血栓症。水分補給を忘れずに、起床すると直ぐ歯磨きをして口の中を清潔にしてから水を呑む。水を呑まぬ人は

向うみずと言う。足は健康の土台。筋肉アップに足を動かす。自家用車は持たずに歩き、遠出は、自転車です足を動かす。又、足裏ツボ押し健康法を朝夕行なう。体に良くないと考えられる物は極力避ける。煙草は慶安の御触書にあるように、よくないもので、

吸うことがない。

また、百薬の長と言われる酒も不酤酒戒。かつては晩酌も過ぎて居たが、アルコール類も過ぎると良くないので、晩酌も止め、特別なとき以外飲まないようにして居る。老いとは、衰弱ではなく成熟すること、人は生きて居る限り成長します。動作を勤め安を好むべからず。健康維持にストレッチをためず、よき習慣に早く配慮した者は、おそらく人生の実も大きい。習慣化する

と苦にならぬ。今日を悔いなく生きる事。気は長く心は丸く、腹は立てずに口つつしめば命長らえる。

(市島町在住)



高校時代の経験が今に

ライフワークになった彫刻

彫刻家 吉居 寛子

このたび縁あって関西丹波市郷友会より原稿依頼を受けることになりました。これまで彫刻家として歩んできたこと、そして丹波で支え育てていただいた感謝



東京日展2020「大切なものは…」

とともに振り返ってみようと思います。

私は丹波市氷上町出身で、結婚を機に滋賀県に移り住み、今年の春、滋賀県の高校の教員を定年退職しました。教員として仕事をしながら、数えてみれば42年もの間彫刻を創り続けてきました。こんなに長く継続してこられたきっかけは、柏原高校時代の美術部での影響が大きかったと思っています。そして、大学時代、大学卒業後も多くの影響をこの丹波の地で受け、その繋がりが今も続いていることを強く感じています。少し時代を追ってみました。

高校時代

振り返ってみると、彫刻をすることが私のライフワークとなった始まりは、この丹波で過ごした柏原高校の美術部の活動にあると思っています。私の高校時代に特筆すべき活動として2つあげることができます。1つは、柏原高校で20数年

にわたって美術部の顧問をされていた故
関口寛治先生の元で、毎年お盆の時期に
恒例のように開催されていた現役の高校
美術部員とOBの先輩方との合同の展覧
会『柏美展』です。一同に並んだ多様な
作品に、その頃まだ高校生だった私は大
変刺激を受けたものです。そして、プロ・
アマで活躍中の先輩から直にアドバイ
スがもらえるという機会にも恵まれていま
した。講評会のような形だったと思いま
すが、表現することの楽しさや、制作途
中の苦労話など先輩の一言一句を聞き逃
すまいとして耳を傾けていたことが思い

出されます。

また、新年会にも現役の高校生もOB
の方と席をともしにする機会が設けられて
おり、このときに交わされる先輩方の熱
き芸術談義に、高校生の私は興味津々で
した。芸術談義は延々と続き終わりのな
いものではありましたが、芸術の奥の深
さに魅了され、それに向かって活躍され
ている先輩方の姿に圧倒され、あこがれ
をも感じました。こんな中で高校生活を
送った私は、芸術を中心に据えた生き方
ともいうべきものが育まれたように思い
ます。



日展2016 WishVI

もう一つ美術部での
活動として思い起こす
のは、毎年だったか定
かではありませんが、
京都や大阪の美術館に
展覧会を観に連れて
行っていただいたこと
です。丹波からですの

で、朝早く電車に乗って出かけるのは大
変でしたが、当時の私には、大変刺激的
だったという印象が記憶に残っています。
多種多様な芸術表現に出会うことが
できたこと、何よりも本物に出会う機会
を得られたことは、とても大きかったと
思います。

これらの体験は、私が創作活動を行う
きっかけになったと同時に土台の一つに
なっていると思っています。知らなかつ
た世界を観ることや、自分とは違った考
えや感性を持った人と話を通することを通
して、自分にとって自明と思われない
ことが、必ずしも他人にとって自明ではな
いことに気づくことができ、クリエイティ
ブな生き方に大変プラスになりました。

大学時代

私が彫刻を始めたのは、大学に入って
からでした。しかし、最初から彫刻の研
究室に所属をしていたのではなく、1年



父子2人展の写真

次はデザインの研究室に席をおいていました。ある時先輩に誘われて彫刻のアトリエを訪れ、人体の制作をされている現



父の水墨画

場にたまたま案内していただきました。そこで、彫刻のアトリエの雰囲気や制作途中の彫刻に、今までに経験したことのないような不思議な魅力を感じました。大学では具象彫刻、裸婦像が中心に制作されていきましたので、作品からは人間の持っている身体の美しさや精神性といったものが伝わってきたことを覚えていま

す。その時、たぶん直感的にだと思いましたが、風景や物ではなくて人間を追求してみたいと強く感じました。彫刻はとても直接的な活動で、自由自在に変形できる粘土を使って、付けたり削ったりして形を作っていきます。石の彫刻や木の彫刻の制作からすると、かなり自由にできるのですが、自由にできるぶん試行錯誤を繰り返しながら形を立ち上げていきます。手の中で粘土を練るように、手の中で思考をしているようなそんな感覚、手の中で思考を重ねて作品が立ち上がっていく。私にはこの表現方法が合っているのではないかという思いを強くして、彫刻の研究室への転科を申し出て、彫刻の道を歩み始めることとなりました。

大学卒業後

繋がりというのは偶然ではなく必然なのだと思える出来事がありました。高校時代の私は、故関口寛治先生が彫刻

家で日展に出品されていることを知らずにいました。大学卒業後日展初入選の時、東京の懇親会の会場で先生とばったりと出会うこととなり、大変びっくりしました。そして、同じ道に進んだ私のことを先生は大変喜んで下さいました。毎年

年賀状には、その年の日展の作品についてコメントがいつも添えられていました。いつも気にかけていただいていると感じるだけで、心強いものがありました。そして、ひとつ上の先輩の磯尾隆司さんも日展に出品されており、何か繋がっているものを感じずにはおられませんでした。

その後、大学進学・結婚と丹波の地を離れたにも関わらず、「May美」グループ結成にはメンバーとして声をかけていただき、丹波で活躍されている皆さんとずっと繋がっていることができました。現在は日展・日彫展の審査員を経て、日展会員・日本彫刻会会員として制作活動

を続けています。私がここまで彫刻を続けてこられたのも離れていても気にかけていただき、声をかけていただいていたメンバーの皆さんのおかげと感謝しております。

「父子2人展」

昨年2020年11月1日から8日まで、コロナ禍ではありましたが「父子2人展」を植野記念美術館で開催させていただきました。父 足立俊護は、父の弟 足立俊邦より水墨画の手ほどきを受け、水墨画の奥の深さに魅了されたようです。退職後は丹波市氷上寿学級墨絵クラブに籍を置き、多くの墨絵愛好家の仲間の方々と交流し、とても充実した時を過ごさせていただいたようです。

絵を描いている父の姿を直接見たことはありませんでしたが、帰省するたびに墨絵の道具が増えていました。また、墨絵クラブのいろいろな話を聞く中で、「い

つかは2人で個展でもしてみようよ。」と声はかけたものの、「まだまだそんなところまでいけない。」となかなか頭を縦には振ってもらえませんでした。

その後、体の調子が芳しくなく、墨絵の絵筆すら持たなくなりました。長らく開かずの部屋になっていた墨絵の制作部屋を整理していたら、多くの作品が出てきました。1枚1枚手に取りながら作品を見ていると、墨絵を教えていただく中で、美しいと感じた自然の景色に思いを寄せ、何度も何度も試作を繰り返した墨の跡に、表現する喜びに出会えたのではないかと感じました。そして、その父の思いに触れる中で、器用ではありませんが一生懸命に墨と格闘し試行錯誤して表現してきた跡を、何とか形にしてあげることができないかという思いになりました。

そんな折り、昨年のお盆に集まった親族に話したら、父の従姉妹より背中を押

され、美術部の大先輩の木寺明さんや磯尾隆司さんにも相談してみてもどうかとアドバイスをもらい、多くの方々に支えていただき「父子2人展」を開催する運びとなりました。特に父方の叔父の松尾敏一氏、父の従姉妹の大槻佐知子氏には、この「父子2人展」への全面的支援をしていただき、多くの方々にご来場していただきました。父子ということで世代を超え、ジャンルを超えた内容になりましたが、振り返ってみると、初めはまとまりのないものになるのではと心配しておりましたが、賛助出品してくれた子供たち（息子・姪）の作品も大変存在感のある頼もしいもので、花を添えてくれました。そして、展覧会に足を運んでいただいた知人・友人の方々の中でも、世代が違う希有な関係の出会いや繋がりが生まれており大変うれしく思いました。

また、会場に足を運んでいただいた皆様の様子を伺い見て、コロナ禍の失われ

た日常の中で、懐かしい人との出会いだったり、時間だったり場所を少しでも提供できたように思え、開催できて大変よかったと思えました。個展は「見るごと」「感じるごと」「話すごと」ができる1つの空間だと思います。だから、ただ見るだけで終わってはもったいないと思っています。せっかくなら同業者でない人と話しをすることで、新しい発見や違った切り口がありとても興味深い話ができ、お互いにとっても刺激になります。そして何より明日からの活力にもなるのです。心惹かれる作品との出会いとともに、人との出会いがあるそんな居心地のよい空間になりました。丹波の地の懐の深さと人の優しさに触れられた1週間でした。ありがとうございます。コロナ禍で日常が制約される中、会場に足を運んでいただいた多くの皆様に、何か伝わる物があったでしょうか。何か残る物があったとしたら大変幸せです。

最後に、大学の恩師で彫刻家の故山田良定先生の作品「彩華」の銘文に「二つのパンがあるならば 一つを売って華を買え パンは体を養うが 華は心を養う……」とあります。芸術は、生きる人になくしてはならないもの、心や感性を養うことの大切さを常々話しておられました。何に対しても概念ではなく、感性で見たり感じたりする生き方をしていると、対象から私たちの方へ、いろいろなことを与えてくれるのだと。このコロナ禍で様々なことを見直すきっかけができたと思います。私たち芸術家ができることがあるとしたら何なのか、今からどんな生き方ができるのか考えずにはおられません。師の教えのように自分の目でしっかりと見て、心の眼で感じ取ったことを信じながら、日常とは違った非日常の彫刻ができる時間と空間を大切に歩んでいきたいと思っています。

（氷上町出身、滋賀県在住）

「平治」より源氏の重臣

足立氏先祖、遠元の活躍

常任理事 芦田敬一

JR福知山線柏原駅の駅舎のそとに、神姫バスの佐治行き乗り場があります。一段高くなっているその場より、遠くのやまなみを追って行きます。しかし、私の故郷の青垣町佐治はその山々の麓ではなく、ずっと遠くの青い空の下です。そして私はいつも思います。今から50年以上前の高校時代に毎日自転車です1時間あの彼方より通っていた。そして、今では無理だと。丹波北端の佐治は、但馬への交通の要で、古代山陰道では駅家うまやがあり、ここへの道を古来より幾多の人々が往来してきました。

さて、今から800年前の承元3年(1

209年)鎌倉時代初期、おそらくあのやまなみの麓をたどって、一群の武士たちが、東国より、はるばる丹波佐治にやってきました。それは、足立遠政の一族郎党です。佐治郷の遠阪山垣とさかやまがきに城を構え、子孫は天正時代の明智光秀との戦いまで続きます。遠政は丹波市、特に青垣町に多い足立姓の先祖です。そして、足立氏は遠政の祖父遠元とのもとにさかのぼります。遠元は平治の乱に活躍し、遠政は祖父のその物語に胸を躍らしたのに違いありません。

今から、860年前の平安時代の平治元年(1159年)のことです。平治の

乱は、三条殿焼き討ちから始まります。ひしめき合い、馬に乗った武者たち、屋根からは、もくもくと黒い煙と大きな赤い炎、平治物語絵詞での印象的なシーンです。源頼朝の父、源義朝よしたもは、藤原信頼の誘いにのり、平清盛の熊野詣の留守をついて、後白河上皇の三条殿を焼き討ちします。当面の敵、藤原信西を討ち取りました。しかし、二条天皇と後白河上皇は清盛方へと御所を脱出して、大義と兵力は義朝方の不利になります。そして、義朝方は御所に立てこもることになります。

いよいよ決戦です。平治元年12月27日、雪は庭や屋根にはまだ消え残り、日の光は、紫宸殿の屋根や鎧、兜などに照り返し、とても美しく感じる朝でした。平家方は、3000の兵を3手に分けて攻撃します。

待賢門たいけんもんは清盛の長子の重盛の500の軍勢に打ち破られます。義朝は長男の悪



佐治より丹波足立氏の本拠、遠阪方面を望む

源太義平を、待賢門にいかせます。先程、
右馬允うまのしゆうになったばかりの足立遠元はじめ

17騎は、付き従います。目指すは、大将
重盛です。重盛は生年23、真つ赤な直垂ひだたれ、
そして鮮やかに赤、黄、白の

鎧を身につけています。兜の
頂には、龍の頭が乗せられ、
太刀は平家伝来の小鳥丸で
す。一方の義平、生年19歳、
濃紺の直垂、胸板に龍が八つ
打たれている鎧は、伝来の八
龍、太刀も伝来の石切丸です。
義平は、「櫛はの匂いの鎧、蝶
の丸の裾金もの、黄月毛の馬
にのりたる主こそ大將軍 重
盛、組んで落として、手取り
にしる」と叫び馬を走らせま
す。遠元を初め17騎は「組も
う、組もう」と庭を勢いよく
何度も駆けめぐります。すな
わち、重盛に狙いを定め、組
み討ちを挑んだのです。その
間には、百騎ほどが入り防ご

うとしますが、勢いに押され、500騎
は、そこから引き下がります。再び新手
の500騎が、門の中に突入してきます。
義平そして遠元など17騎は、重盛の間に、
入った郎党をもとめせずに戦いをいど
み、重盛はまたもや退散します。そして、
数で劣勢の義朝は清盛の六波羅を攻撃し
ますが、敗れることになりました。

六波羅合戦では、次のような話が載せ
られています。遠元は戦いの最中に金子
家忠に出逢います。家忠の刀は折れ、替
わりの太刀があれば賜りたいと乞いまし
た。遠元には、替わりの太刀がなかった
ので、家臣の太刀を与えます。そして、
ここでは、「かかるいくさの中にして、太
刀を金子にとらせけるころのうちこそ
やさしけれ」と結んでいます。

敗れた義朝一族郎党は、比叡山僧兵の
落武者狩りをかまし、滋賀県堅田につき
ます。そこで、遠元などの20余騎の郎党
は、義朝、頼朝などと別れ、東国へ落ち

延びて行くこととなります。そのうち、義朝は討ち取られ、頼朝は伊豆に流され、平家の世の中になります。

平治の乱より21年後の治承4年（1134年）伊豆で拳兵した頼朝は石橋山で敗れ、千葉県の房総半島に落ち延びていきます。そこで軍勢を募り、鎌倉を目指します。隅田川をわたり、武蔵の国に入つたところで、頼朝の命により、遠元は迎えにあげられます。そして、鎌倉到着2日後には、日頃色々と功勞を重ねている上に、御召に応じて真っ先に参上しているとして、治めている郡郷（武蔵国、足立郡の領地）を最初に安堵されています。鎌倉時代には、遠元は公文所の寄人、2代將軍時代の合議制の13人にも選ばれ、文武両道の武士として活躍します。

日本の歴史のなか、平治の乱では、足立氏の先祖の足立遠元は、活躍するともに、生き延びることができました。鎌倉幕府では重要な役割を果たし、その子

孫は各地に散らばります。そして遠く、860年後の現在の私たちの時代に引き継がれてきました。

（青垣町出身、尼崎市在住）



農漁村の活性化めざす

丹波での経験を生かして

東京大学大学院農学生命科学研究科教授 八木 信 行

農学栄えて農業減ぶとの言葉がありま
す。学問だけが発展しても、社会や経済
の安定、更には個人の幸福感、生活の質
向上に役に立たなければ意味がないとの

考え方です。私も農学を研究する者とし
て大切にしている言葉です。

今からふり返ると、少年時代を丹波で

過ごし里山環境などに触れたこ
とで、この感覚が養えたと思っ
ます。氷上町出身の私は、水田
で昆虫を観察し、佐治川で魚を
釣る毎日でした。柏原高校を卒
業し、一浪して東京大学理科II
類に入学、その後農学部で海産
動物の生殖細胞を研究し論文も
書きました。そして農林水産省
の行政官になりました。

入省した1987年から私はすぐにグ
ローバリゼーションの波に揉まれること
になります。国家公務員上級職で採用さ
れた行政官は若いときに毎年英語の試験
が課されます。上位何名かは外国の大学
院に留学できます。留学定員は人事院が
各省庁に割当てっており、当時は大蔵省や
通産省は割当人数が10人程度あった一方
で、農水省はアメリカに留学できるのが
1―2名で、次点の1―2名がカナダや
イギリスに留学できる状況でした（今は
かなり枠は増えています）。1991年、
私はやつとこのことでTOEFLテストで
省内1位を取り、1992年からアメリ
カのペンシルバニア大学ウォートン校の
大学院に留学しました。ウォートンは
MBA分野では全米ランキング1位で
す。そこには東大にはいないタイプの才
能を示すユダヤ人学生がいて、衝撃を受
けました。課題の本質を見抜く力、それ
を解決するアプローチの仕方とそのス



ピード、これら全てに天才的なひらめきを感じたのです。

1994年にMBAを取得して一旦5年ほど日本で勤務した後、今度は1999年からアメリカのワシントンDCにある日本大使館の経済班に一等書記官として赴任しました。アルカイダのテロも発生しましたが、なんとか無事に職務をこなし、離任時にはアメリカ商務省から表彰状も頂きました。2002年に東京に戻り、その後は農水省でWTO対策チームの一員として国際交渉に従事する仕事をしました。国連やWTOなどの国際機関を頻繁に訪問しましたが、ここでも日本にいないタイプの才能に出逢い衝撃を受けました。私は日本では中央官庁の精鋭と日常的に接していましたが、それよりも国際機関にいる一部の外国人専門家の方が能力は高いのです。彼らは途上国と先進国で異なる意見を聞い

た上で、各国の感情面での機微を踏まえつつ、国際的な合意形成に持ち込む天才的な力量を持っています。どうしたらこのような人材をそろえることができるのかは今でも謎です。

同じ頃、東京大学の出身研究室の教授から連絡があり、そろそろ大学に戻って来いとの話ももらいました。農水省では花形ポストを歴任しており将来性はあつたと思いますが、私は恩師の誘いを受けることになりました。ウォートンや国際機関で卓越した能力を持つ外国人をこの目で見た衝撃が頭の中に強く残っており、匹敵する人材を日本でも育成しなければならぬと考えたためです。そして2008年に農水省を退職し大学に移籍しました。当初は特任准教授でしたが、2011年に正規の准教授に、2017年に正規の教授に昇格しました。教授になるためには査読付きの原著論文を概ね

50から100編程度出版しておく必要があります。私は行政官として過ごしていた20年間の研究ブランクがあり、大学では論文を人の2倍以上のペースで出版しなければならぬハードルもありましたが、水産経済学や環境社会学の論文を毎年5編以上出版し、10年かけて何とかこれをクリアしました。

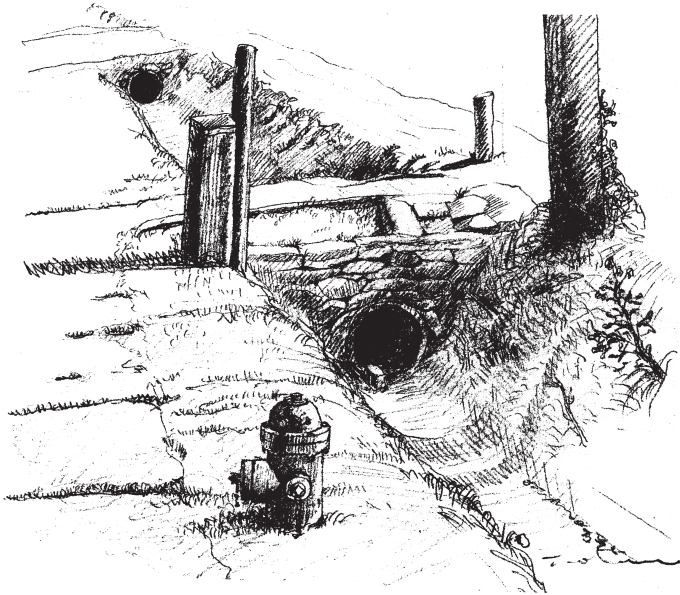
並行して2014年から農水省の世界農業遺産等専門家会議委員となり、日本の農業遺産候補地を訪問する機会を多く得ました。また2019年からは国連農業食料機関（FAO）の世界農業遺産（GIAHS）プログラム科学アドバイザー会合委員となり、世界を対象に農業遺産を認定する役にもなりました。

しかしその中で、世界農業遺産に認定されても、そのポテンシャルを経済発展に活かさないケースがあることに気がつ

きました。どうすればいいのか。社会が見落している農山漁村の価値を活用することが重要であると私は考えました。現状では、農山漁村が持つ価値は、その産物である農林水産品の値段だけで評価されています。いわば成果主義の評価で、プロセスは評価されていません。農林水産品を生み出すプロセスとしては生態系の営みや美しい景観があります。この価値を再定義し、都会の消費者による応援買いやグリーンツーリズムに活かすことができれば、農山漁村の価値が高まり地域活性化の道が開けます。これを目指してマーケティングや心理学を利用した研究を現在行っています。

グローバルからローカルに活動の場所が移ったと感じています。丹波の皆様とご縁があると思います。農学栄えて農業減ぶ、といった状況にならないよう、ご協力をいただければ大変助かります。

(氷上町出身、東京都在住)



丹波を考古楽散歩〈下〉

― 続・青垣町 ―

兵庫県立考古博物館 社会教育推進専門員 藤田 淳

はじめに

このたびは定年退職を迎え、現職最後の2年間を過ごした兵庫県立考古博物館から、元の職場である兵庫県立考古博物館に復帰しました。通勤時間は倍近くになりましたが、今回のような調べごとには便利です。

では、前回に続き古代〜中世の青垣町をご案内しましょう。

奈良・平安時代の青垣

天皇を中心とした国づくりを進めた奈良時代には、地方行政でも国・郡・里後に郷(里)という行政組織が整備されま

す。京都府と兵庫県にまたがる丹波国の

国府は亀岡市に置かれ、11郡からなっ

ていましたが、和銅6(713)年に、5

郡が丹後国として分立します。

郡の役所(郡衙)は、水上町に本院を、

春日町に別院(支所)を置いて、東西に

広い郡域をカバーしていたことが山垣遺

跡(春日町)や市辺遺跡(水上町)から

出土した木簡から明らかになっていま

す。

水上郡の郷名については、『和名類聚

抄』高山寺本に、栗作 舉田 原負(石

生) 舩城 春部 美和 竹田 前山(以

上東縣) 佐治 伊中 賀茂 水上 石

前 葛野 沼貫 井原(以上西縣)として16の郷名がみえます。

青垣町内では役所の施設と考えられる遺跡は発見されていませんが、前号でも紹介した沢野遺跡、城ノ越遺跡、平野遺跡、土井遺跡、田ノ口遺跡で奈良時代あるいは平安時代の集落が見つかっており、古墳時代後期以降も遠坂川流域には点々と集落が営まれたようです。

沢野遺跡では奈良時代になっても堅穴住居が使われており、100m×50mくらいの範囲に、掘立柱建物とあわせて、50棟も集中して見つかっています(図1)。8世紀前半の数十年程の間に集落が急に拡大したかと思うと、プツツと消えてしまいます。

次に述べる古代山陰道佐治駅家との関連が想定される集落です。

古代山陰道と佐治駅家

奈良時代には都と地方を結ぶ国道(古

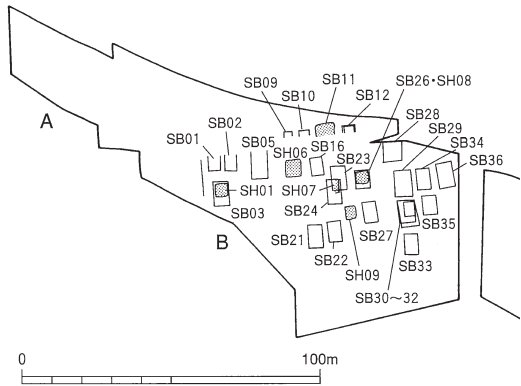


図1

代官道(が整備され、役人が乗り継ぐ馬を置くための駅家が設けられます。

丹波国には日本海側の諸国を経由し、長門国で山陽道と合流して大宰府へと至る古代山陰道が通ります。氷上郡には星角駅家と佐治駅家の2駅が置かれた。

かつては全国に400を超える駅家があったはずですが、その位置が判明して

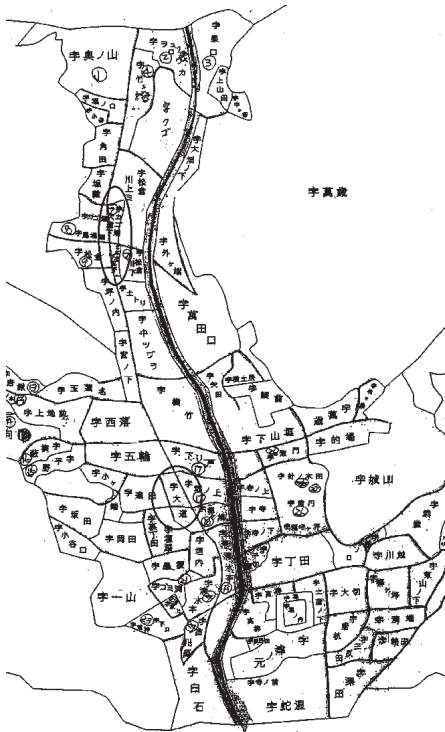


図2

いるのはごくわずかです。

佐治駅家は佐治郷内にあったことは確実ですが、正確な場所はまだわかっていません。現在の佐治地区とは限らないのです。遠坂谷に中佐治地区があることや、『丹波誌』によると「山垣字横土居よりも奥を上佐治、口を下佐治」という記載があることなどから、近世以前の佐治の中心地を遠坂谷に求め、中佐治地区にあったのではという説が有力です。

山陰道に関連しそうな地名では、山垣

地区に「字カゴ畑大道下」「字松倉大道下」「字大道」(図2〇印)があることが知られています。

これらはすべて遠坂川右岸にあります。駅家と道が川を挟むことは考えにくく、中佐治地区から山垣地区周辺に佐治駅家を求めるなら、遠坂川右岸に候補地が絞れそうです。

駅家の中心施設となる駅館院(やっかんいん)は、一辺80mの方形区画をもっている例が確認されているので、そんな目で空中写真を見ていると、山垣城の南

西に方形の区画が見えるではありませんか(図3左の〇)。これはひよつとしたらと思います。限図ではこのあたりを方形区画が認められないなど難



図 3

たかと考えられます。
田ノ口遺跡集落の繁栄

古代〜中世にかけて10棟以上の建物が存在した田ノ口遺跡は、遠阪谷で最も繁栄した集落です。集落が拡大するのは平安時代の終わり頃（11世紀中頃〜12世紀中頃）で、床面積が100㎡を超える非常に大きな総柱建物が建てられ、大型建物内には屋敷墓も造営されています。

れ、屋敷墓や経塚の存在もそれを裏付けます。
このような有力な在地領主が遠阪谷に居を構えた要因として、佐治駅家が廃絶した後の「宿」としての役割を果たしたのではと指摘されています。

足立氏の登場と山垣城・山垣館

青垣町の足立さんには「馬の耳に念仏」

点もあります。いつか調査が及ぶ日が来ることを期待したいと思います。

ところで、駅家には馬を飼育し、様々な駅務に携わる農民（駅子）が必要で、円滑な運営を行うために計画的に集住させられた可能性が指摘されています。先の沢野遺跡の奈良時代前半の集落は、佐治駅家の駅子が暮らす集落ではなかつ

屋敷墓とは死者を屋敷内あるいは屋敷の敷地内に葬る慣行で、被葬者はその地を開発した先祖に限られることが多く、子孫の土地継承を守護するものとして信仰されました。さらに背後の尾根には経塚も造営されました。

建物の規模から、佐治郷全域に影響をもつような在地領主の存在が想定さ

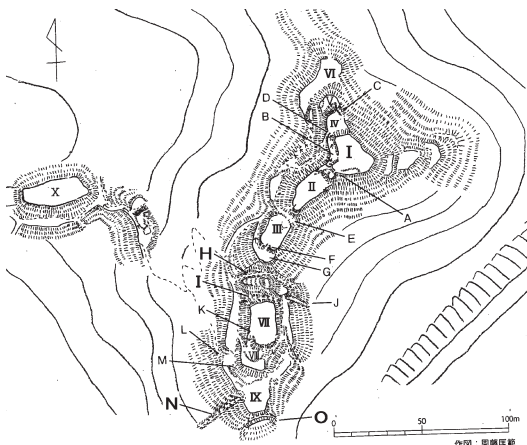


図 4

かもしれませんが、足立さんのご先祖となる人物は、承元3（1209）年に地頭に補せられ武蔵国足立郡から入部したとされる足立遠政です（「足立系図」）。足立氏は山垣城と山垣館（図3右の○）を拠点とし、佐治郷を引き継ぐ佐治荘内に一族が広く居住しました。

山垣城がどのような構造をしているのか城郭談話会の周藤匡範氏による縄張り図（図4）で見てゆきましょう。

最高所にある主郭（I）から3方向に尾根が伸び、特に南西側に規模の大きな曲輪が連続します。

北側の曲輪ではIV・V郭は規模も小さく比高差も3〜4m程度ですが、VI郭は広く、V郭とは10m近い比高差があります。尾根伝いで攻め寄せる北側から敵への防御を図っているのでしょう。

南西へはII郭、III郭と細長い曲輪が続き、その先のVII郭との間は二重の深い堀切（H・I）で遮断されています。城郭

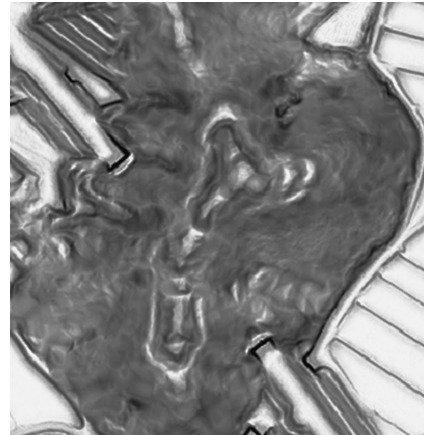


図5

中心部への侵入を食い止める有効な防御施設です。

VII郭は主郭に次いで広い曲輪で、長さ25m、幅15mほど。現地に立つとその広さが体感されます。その先の小規模なVIII郭と尾根先端のIX郭との比高差は10m近くもあります。

IX郭は小規模な曲輪ですが、帯曲輪をU字形にVII郭下まで巡らせ、その先は堀切（O）で遮断、堅堀（N）も設けて手強い防御を感じさせます。

このような縄張り図は城郭研究者でなければ描けるものではありませんが、近年は航空測量技術の発展によって、樹木で覆われた山の中の地形をパソコンやスマホで簡単に見ることができるようになりました。

兵庫県では全県域の1mメッシュの高データを公開しており、そのデータにもとづくCS立体図を見ることができま

す。山垣城の立体図（図5）と周藤氏の縄張り図を比較すると、堀切や堅堀は不明瞭ですが、曲輪や帯曲輪はかなりしっかりと表現されていることがわかります。

県内の市町教育委員会埋蔵文化財担当者、これを利用し、古墳や山城といった遺跡を新発見するという成果を挙げています。

興味がある方はひなたGIS検索で一度お試しください。ひよっとしたら大発見につながるかもしれませんね。

（山南町在住）

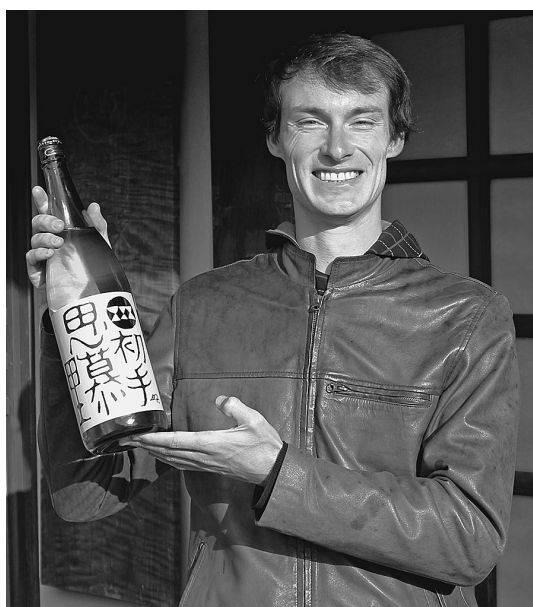
丹波の酒造場で働く

多くの友人に出会い

フィリッピ ポゲンポール

初めまして。南アフリカから来ました
フィリッピと申します。現在は丹波市市

島町にあります西山酒造場で働いていま
す。



日本への興味は、幼い頃から
サムライやニンジャの物語を見
ていたことから始まりました。
日本の文化や自然をできるだけ
深く体験することを目標に、
2017年に来日しました。長
崎県の大村市でALT (Assist
ant Language Teacher) とし
て3年間働き、可能な限り日本
の様々な場所を探索することに
時間を費やしました。そして

2020年、幸運にも兵庫県に移住する
機会を得て、神秘的でおいしい日本酒の
世界に足を踏み入れることになりました。
た。

2014年に初めて日本を訪れたと
き、台風で強風の中、私は京都市の橋の
上に立ち、傘の下からビデオを撮りなが
らワクワクして笑っていました。「やつ
とここに来れた！」と思いました。

2回目の来日では、2015年5月に
2週間かけてバックパッカーとして福岡
から関西、東京へと旅をしました。毎日
のようにハイキングや散策をしていたの
で、体はだんだん丈夫になりましたが、
すべてを見て回るには時間が足りませ
ん
でした。

2016年、私はシンガポールで働い
ていましたが、これ以上自分の夢を遅ら

せることはできず、JET Program (Japan Exchange Teaching program) に応募しました。合格通知が来たときは、夜も次の日も読み返しました。頻繁にチェックしないと内容が変わってしまうような気がしたからです。

ALT (外国語指導助手) として大村市で過ごした3年間はあつという間でした。たくさんの思い出と友人ができて、日本との関係をまだ終わらせたくありませんでした。私が就職活動を始めた頃、コロナが世界的に広まった時期でしたので、就職活動をするのにはいいタイミングではありませんでした。しかし、ありがたいことに、すべての企業が採用を中止したわけではなく、私は丹波市の求人に応募することができました。応募した時は丹波の人々は猪肉をたくさん食べることで有名だということ以外、何も丹波市について知りませんでした。

2020年8月、西山酒造場での最終面接の後、夕方の空気を吸い、夜が来るのを感じながら丹波竹田駅で、友人に電話して、「ここでの生活を楽しめると思いうよ」と言ったことを今でも鮮明に覚えていきます。

10月に丹波市に引っ越した後、ある日、バイクのバッテリーが上がってしまいました。どうしたらいいかわからず、考えながらフレッシュバーザールに食料品を買いに行きました。すると、気さくな女性がとても上手な英語で話しかけてくれました。何か困ったら誰かに話したらいいよと、この町に来たばかりの私にそう言ってくれました。私は、早速、バイクのバッテリーが上がったことを説明しました。彼女は旦那さんに電話でアドバイスしてもらいながら彼女の車と私のバイクを繋いでエンジンをつける手助けを買っ

て出てくれました。その2週間後には、彼女のご家族は私を自宅での夕食に招待してくれました。だから、南アフリカにいる家族に「新しい町の人は親切？」と聞かれたら、私は迷わず「今まで出会った中で最も親切な人たちが住んでいる」と答えています。

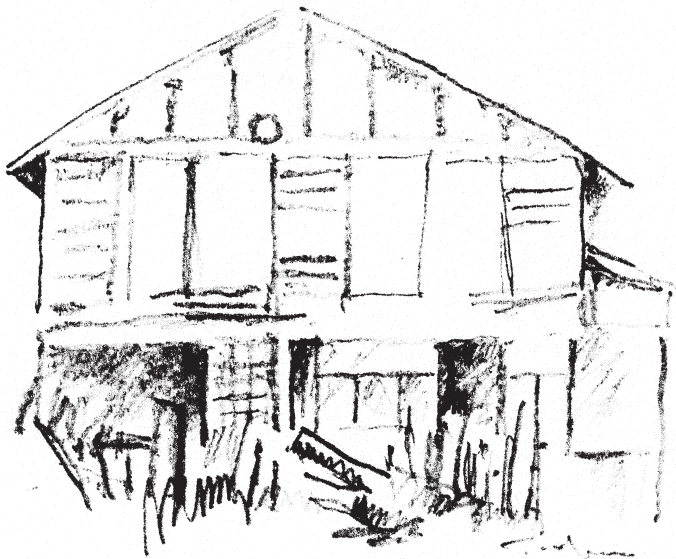
現在、私は幸運にも西山酒造場で多くの素晴らしい同僚と一緒に働いています。まだまだ日本語も接客も上達していませんが、ぜひお店に来て、商品を味わってみてくださいね。西山酒造場で学んだ新しい知識を皆さんと共有したいと思っていますので、ぜひお店に足をお運びください。

丹波市に引っ越したことで、新しい経験とたくさんの友人ができました。そして何よりも、私は新しい地で最も素晴らしい女性に出逢うことができました。彼

女と新しい冒険を一緒にチャレンジすることができたのも丹波に引越してきたからです。

コロナ渦で、南アフリカにいる家族や友人に次いつ会えるかなど、今はまだわからないことがたくさんあります。しかし、ここ丹波市で私を温かく迎え入れてくれた地元の方々、この素晴らしい経験や人々との出会いのチャンスをくれた職場の皆さんに私はいつも感謝の気持ちでいっぱいです。(本人が日本語で記述)

(南アフリカ出身、市島町在住)



異国の教壇で自前の研修〈上〉

英国、アイルランドそして

石田里加

約20年間教員として中学校現場に勤めている。学校と自宅の往復だけの生活に疑問を感じ、思い切って2年間の研修休暇を取得し、異国の教育現場を渡り歩いた。研修といっても、公的機関の研修ではないため、計画も経済面もすべて自前である。当初から無謀な計画で色々と苦労も多かったが、得るものは少なくはなかった。

〈多様性を包む大都市ロンドン〉

はじめに、英語のレッスンを受けるためロンドンの語学学校に入学し、中心部から地下鉄で北に30分ほどの郊外に滞在

した。中心部にはいわゆる昔ながらのイギリス人が住んでいるが、少し離れると英語を聞く機会がほとんどないほど移民の街であった。赤い二階建てバスに乗ると、聞こえてくるのは東欧の言語のような、耳慣れない言葉が飛び交っている。バスを降りると見渡す限り全部他言語の看板ばかり、ここは本当にイギリスなのかという場所もあった。インド系や韓国系、アラビア系や東欧系などそれぞれ同じ文化的背景を持つ人々が寄り添って住んでいるようだった。もちろん日本人が多く住む地域もある。しかし、一歩外に出ればそこは、多様な人種が行き交い

様々な言語が飛び交う文字通りの国際都市であった。ロンドン滞在中にヨーロッパ各都市を訪れたが、どこも同じように多様な人々が共生しており、むしろ日本



ロンドン 国会議事堂付近

の大都市のほうが例外なのではないかと感じた。ヒースローやキングスクロス発のフライトや特急列車に乗ると、1時間程度でフランスやドイツなどに行くことができた。もちろん入国審査はない。当然のように数か国語を操り様々な文化を受け入れながら生きる人々と、毎日自宅と学校を往復し、何の疑問も持たず自分の価値観を生徒に押し付けていた自分とを比べて心がザワついた。また、先進国

でありながら伝統的な貴族制度を維持しており、現代においても階級社会を当然のものとして受け入れている。日本人のイメージする「平等」とはまた別の価値観がそこにあつた。「貴族のおかげでこの国がある」「あの人は労働者階級だから」など、差別ではないかとヒヤヒヤする会話も日常的に聞かれた。領土も日本より小さく人口もさほど多くない島国が、植民地を放棄してもいまだ世界に冠たる理由を知りたいと思つた。国も言語

も文化も異なる人々にとってどこか魅力のある国であり、世界中から集まる人々と情報を狡猾に分析・コントロールしてきたからではないだろうか。「多様性と情報運用」がこの国の強みではないか、そんな風に感じながら過ごした。ブレグジット後が気がかりである。

〈緑と青、そして雨〉

ゲストティーチャーとして初めての体験は、アイルランドの首都ダブリンから電車で2時間以上もかかる小さな村のセカンダリースクール（公立中学・高校）だった。イギリスとは少し異なるアクセントの英語を話す、お酒好きで親切な人々が、自然とともに朗らかに暮らしていた。周りにあるものはグリーン（芝生や草など）とブルー（空と川と海）、そして冬の雨。ステイ先から学校までは、急遽キャンセルもある1日4本のバス30分徒歩30分だったので、自動車の国際



アイルランド 一面緑の牧草地

免許が役立つと思つたが、日本のエージェントから車の運転はしないよう助言されたため、毎日勤務地にたどり着くまでがひと苦労だった。秋から冬にかけての派遣だったため、欧州の冬は日照時間が短く、慣れない者にとってはかなり辛い。不十分な言語力とろくな移動手段も持たないよそ者は、経験したことのない

精神の危機に直面した。

アイルランドでは、高校1年生の学年を「移行期の学年」とし、職場体験や体験授業がメインのコースを選択することができる。もちろん、より早く多くの知



アイルランドの高校

識を得たい生徒は「移行期」をとばして

次の学年に進むが、私が派遣された学校では、8割の生徒が「移行期」を選択していた。担当したのは、その「移行期」の高校1年生たちだった。活動が自由で制限が少なく、しょっちゅう校外に出て様々な体験を積んでいた。中学生版ギャップイヤーといったところか。その他大部分の生徒たちは学校内で座学メインの学習をしていた。教師は少なくとも2科目を教える。教科ごとに教室が定まっており、生徒がリュックにすべての学習用具を詰め込んで移動する。1コマが30分で、業間の休み時間がなく、終了のベルと同時に次の授業が始まるという慌ただしさで、終業ベルと同時に大混雑が始まる。私にとっては次の教室まで毎回迷路だった。少々遅れても咎めず、スポーツの大会などで不在の生徒もいる。昼休みは一切の事務処理を停止し、生徒も教師もきっちり休む、という徹底ぶり

は清々しかった。

以下は、アイルランドをはじめ訪問したすべての国の学校に共通していることだが、どんな田舎町でも日本の公立学校に当時ほとんど導入されていなかったICT設備が完備していた。見るとメーカーのほとんどがMade in Japanである。同じころ日本での私は、学校に数台ある機器をようやく持ち運んで何とかスクリーンに映し出すことができたのだから、国の技術や産業は何のためにあるのかとショックを隠せず愕然としたものだった。部活動や掃除の時間はなく、昼食はチョコレートやスナックで済ませる生徒もいる。先生たちは生徒の個人的なことにあまり口を出さない。学校の役目は学力向上であり、生活指導や食育は家庭の役割として明確に線が引かれていた。使用する教科書は分厚く宿題の量が半端なく多い。課題や試験はそのほとんどが文章による記述で、一

問一答形式のただ知識を問う問題はあまりない。生徒も大変だが先生の採点もかなり時間がかかる。また、日本のような学習塾に通っている生徒には1人も会わなかった。「日本の中学生は6時まで部活をして10時くらいまで塾に行く子もいる」と言うと、とんでもない、といった素振り。「日本の中学生じゃなくてよかったよ」と満面の笑みが返ってくる。高校入試がないせいもあるが、豊かな自然とゆったりと流れる時間の中で、音楽と家族とちよつぱりのお酒が幸せという静かな国に暮らす人々を、羨ましくも思ったが、寒い冬の夜、暖房が壊れても何日後に修理業者が来るかわからない、という暮らしには耐えられないだろうと思つた。

イギリス、アイルランドで約1年を過ごし、春の訪れとともに、教育先進国のフィンランドへと旅立つた。

(丹波市在住、次号に続く)



湿度 求めて世界の旅に

ふれあいに命吹き込むもの

氷上西高校教諭 神崎悠哉

「世界一周しました」と言ってます聞かれることは「どれくらいの期間で?」「何カ国周った?」などで、少し掘り下げた質問があっても「どの国がよかったです?」や「危ない目に遭わなかった?」のようなことが多い。一方で、「何を求めて旅をしていたの?」という、旅の目的に関する質問はほとんどない。これは旅人同士でも同じで、互いに旅のきっかけや当初の目的については語り合うが、旅を続ける、繰り返す理由についてはあまり触れることはなかった。そりゃ旅が好きだから続けるんですよ、で会話が終わってしまうかもしれないが、旅人が当

初の目的をある程度達成してなお、旅に求めるものは何かを敢えて聞くことで、その人の価値観や人生観を知れたり、より個人的で深い旅の話が聞けたりすると思うし、実は私もぜひ聞いて欲しい（でもあまり聞かれない）ので、「旅を続ける理由」をこの貴重な機会に書かせていただくこうと思う。

そもそも私が世界一周の旅に出たきっかけは、大学在学時に受けた教員採用試験に不合格になったことだった。試験に落ちても臨時講師として教壇に立つことはできる。でもせっかく不合格になったのに、このまますぐ教師になっていいん

だろうか、いや、何か今しかできないことをやろう、そうだな、世界一周だな!と、同じく不合格になり講師登録書に記入していた友達を横目で見ながら1分ぐらいで決めた。大学でダンスサークルに所属し、運動音痴でも努力すれば踊れることを証明しようと思死に練習していたのと同様、英語が死ぬほど苦手な自分が世界を大冒険することで、将来の生徒に「できないことはない」と自分の体験を持って語れるという思いがあつての判断だったと思う。

そして2010年の4月、本当に世界一周に飛び出た。前半のアジア旅は、それはもう期待と不安の入り乱れた大冒険だった。片道切符でのフライト、陸路での越境、飛び込みの宿探し、今までの自分の常識が通じない文化の違いや見たこともない景色:全てが新鮮で、どの経験も出会いも刺激的だった。しかし半年を過ぎ、アフリカ大陸の途中ぐらいいから旅



もう一度行きたい国No.1 バヌアツ

の刺激に慣れてきている自分に気づく。いや、ひよっとしたらもっと早くに旅の新鮮さがなくなっていたが、アフリカという地ですら、未知への挑戦や緊張といった「冒険感」を感じなくなっていることでそれを確信したのかもしれない。旅の後半は残された時間と貯金との戦いである。両方持ち合わせていなかった私



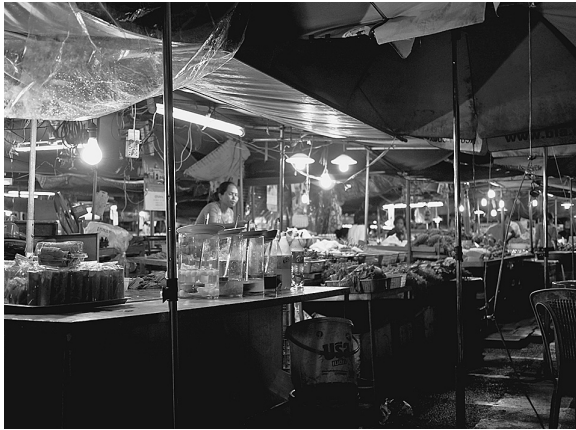
キルギスの遊牧民のテントに泊めてもらう

は南米を駆け抜け、世界一周を終えた。10ヶ月間、30カ国という急ぎ足の旅だったが、それなりに世界中を見て、何時間でも生徒に語り続けられる経験をし、当初の旅の目的は達成された。そして世界一周したという事実には満足し、実はこの段階では再び旅に出たいと思うことはなかった。



マラウィのマンゴー売りの子どもたち

その3年後、当時の彼女が世界一周に旅立ち、こちらの冬休みを利用し現地でお会いということ、メキシコに行くことになった。「彼女に会いに行くため」という、冒険感はおろか、行きたい名所すらない旅。しかしその気負わない旅が妙に心地よく、世界一周の時は「次の国に行かない」と自分を急かし、どの国も



東南アジアの屋台街

通過点としか見ていなかったり、「名所を訪れて写真を撮らない」と旅の土産話に説得力を持たせる義務感に苛まれていたりしたことに気付かされた。

これをきっかけに、仕事をしながら夏休みや冬休みを利用し、もう一度世界の国を旅するようになる。だがそれは以前とは違う、未知なる刺激のためや誰かに

語る思い出をつくるためではない旅だ。旅先で写真を撮ることも減った。キルギスの草原でただ本を読んだり、セネガルの岬でただぼんやりしたり、スリランカでただカレーを食べるような、ただ現地に行き、ただ現地のもを食べる中で、ただ現地の人と関わるような旅を続けているうち、自分が旅に何を求めているのかが明確になった。それは『湿度』なのだ。旅の記憶を辿るとき鮮烈に思い出され、また欲しくなるもの。例えば東南アジアの屋台街から溢れ出て鼻を突くおそろしく密度の濃い匂い、チベット最果ての仄暗い寺院に立ちこめるバターろうそくの香り、アザンが鳴り響くザンジバルの夕闇に包まれた石造りの街の空気が、ジャマイカの深夜のゲットーでダンサー達が生み出す熱気、現地の人々や旅人との別れ際の握手：そんな匂いや空気が、人間同士の接触到命を吹き込み、唯一無二の感覚を生み出す要素が、その場

所や人が固有に持つ『湿度』である。仮に日本で全く同じ匂いを嗅いでも、全く同じ景色や人の写真や映像を見ても、それが全く同じ「気温」のもとであったとしても、その場所ですら感じられない『湿度』がなければ、旅の感動は再現されないだろう。世界中のそれぞれの地域の風土と人々がつくり出す『湿度』を、その地域の人々の生活に少しでもお邪魔して共有すること、それが私の旅の目的なのだ。

2020年、新型コロナウイルスの流行によって、境界線を越えることは制限され、マスク越しでしか空気を感じられず、人と関わることはリスクとされてしまった。日常でも『湿度』を感じる事ができなくなった世界は味気なく、心震える瞬間も少ない。1日も早く、世界中の人々と『湿度』を共有できる日が来ることを願ってやまない。

(青垣町在住)

商社・大学・地域ボランティア

海外経験もとに地域貢献

近藤 徹

6年生までの6年間を過ごした。終戦後学制が改正され、新制の進修中学校、柏原高校、神戸大学経済学部と、旧学制をまたぐことなく進学した。このような年代は私たちの学年だけで、国民学校世代といわれる。

第二のキャリアヤーとして大学で教鞭をとることになったとき、自己紹介として、

「私は小学校には行っていません。入学試験や就職試験などそれぞれ一回しか受けていません。アメリカの女の子の父親でした。」としたものである。



趣味の木工品を手に

私は、三尾山を真正面に見る国領村柚津（現春日町）で生まれました。昭和16年から6年間小学校は国民学校と改称されたが、その進修国民学校でその1年生から

入学試験はそれぞれ1回でパスし、最初の就職試験で丸紅株式会社へ就職した。この年、合併で丸紅飯田となり後に再び丸紅となった。丸紅を定年退職後は、帝国女子短期大学英語科の教員となった。この年、大阪国際女子短期大学と改称された。これらの点でも変り目変り目に遭遇している。所属は大阪国際女子大学コミュニケーション学部、大阪国際大学社会学部コミュニケーション学部と移り、英語や貿易実務などを講義した。教員経歴は初めてで、教科書を作ったりプリントを作成したり、教材は殆ど自分で作った。週7回の90分授業は大変だった。就職氷河期に就職室長を拝命したが、大変

難儀した。これらの苦勞もあって定年退職時には大阪国際大学名誉教授の称号を与えられた。余談だが、1回の見合いで現在の妻と結婚したと云って笑いを誘ったものである。

丸紅ではジャカルタ支店や米国会社など海外勤務、数回の海外出張もあった。ジャカルタではまだスカルノが大統領で、湯の出るホテルは日航のホテルインドネシアだけだった。社宅には風呂が無く、水溜めの縁をコンコンと叩いてポーフラを沈め、水を頭からかぶっていた。随分昔の話である。

ニューヨーク駐在は1969年の月面着陸から1976年の独立200年祭までの7年余りで、スミソニアン合意で為替レートが変わったり、ウォーターゲート事件でニクソンが大統領を辞任する騒ぎなどがあった。駐在中に長女が生まれ米国の国籍を取得した（日本国籍との重国籍）が、帰国後23歳の時米国籍を放棄し

日本人になった。以上が自己紹介の裏話である。

堺屋太一氏によると、人生の2割は育児や教育で社会の世話になる期間、6割が働く期間、2割が社会に恩返しをする期間とのことであるが、人生80年として6割の48年間働き、以後社会への恩返しの時期となっている。平均余命を過ぎ、2割が若干伸びて、現在アデイショナルタイムを消化中である。

民主党が政権を取ったとき、掲げたマニフェストが実行されず墮蹙を買ったものだが、私は定年後の生活におけるマニフェストとして「趣味4地域貢献3妻へのサービス3」に時間をあてると公言した。民主党と違って、「やる気、根気」のモットーのもとほぼこの通り実行している。

趣味としては、まず家庭菜園で、100坪の農園を賃借して長年野菜を栽培して、ほぼ自給自足の状態である。青垣町

の特産といわれるあざみ菜も、なんとか種を入手して栽培が続いている。写真は会社勤め以来の趣味だが、最近では撮影が少なくなり、時々気に入ったものをA4に印刷してアルバムに加えたり、野草の花を年賀状にしたり、写真俳句を追加したりしている。俳句といえば、一日一句の俳句作りを続けており、3000句で一度中断したがまた再開し、2021年9月には4000句に到達する。あとで触れる里山手入れによって手に入れる木材やつる植物を使って、木工作やつる細工をしている。縁があって芦屋のmokonoという自然素材の婦人服や小物の店で私の作品を置くことになり、芦屋と篠山の店で合計1000点ほど売り上げた。現在は篠山店の人が独立し、能勢町で糸草という店を開くことになり、ここ2年ほどでスプーン、孫の手、靴べら、料理へら、箸、つる籠など600個以上売れている。最近では注文生産もあ

り忙しくしている。例えば、テレビでセーターの縫いが放送されたらダーニングマッシュルームの注文があるといった具合だ。材料は、先に述べた通り、里山の手入れのときいくらでも手に入る。これは、コピスクラブ（後述）の「里山の自然環境の保全を図りその有意義な活用を図る」という目的に適うものである。

地域貢献としては、豊能町観光ボランティアの会など3つのボランティア団体を立ち上げるなど一時は6団体に参加していたが、加齢とともに順次引退し、現在は豊能町コピスクラブだけを主宰し、月2回豊能町の町有林の手入れを行っている。豊能町選挙管理委員のときには、町会議員選挙で「一票差事件」を担当した。これは、一票差で落選した候補者が審査申立てを行い、全票審査の結果無効票の中に1票の落選候補者の有効票を認めて同票数になり、抽選の結果当落が逆転したものである。一転落選となった候

補者が高裁に異議申立てを行い、最高裁まで行って選管の決定が確定した。そのほか、大阪府知事の委嘱を受けて妙見山あたりを担当する自然環境保全指導員を80歳定年まで6年間勤めた。

また、あとで詳しく述べるが、郷土に關する自然、文化財、出来事などをまとめた自費出版物などを数件町立図書館に寄贈し、町民の閲覧に供している。

妻へのサービスとしては、タスマニアのオーバーランドトラックなど7回の海外トレッキングツアーが特筆できる。観光だけではなく海外の自然を満喫した。国内ツアーもあちこち行き、奄美大島への金婚旅行は楽しいものであった。毎朝飲むコーヒーの生豆焙煎も妻へのサービスだろうか。

米国より帰国後ここ大阪府豊能郡豊能町に居を構えて以来、当地方の自然や文化財などのあるアイテムを追い、写真アルバムを作り、小冊子にまとめ、場合に

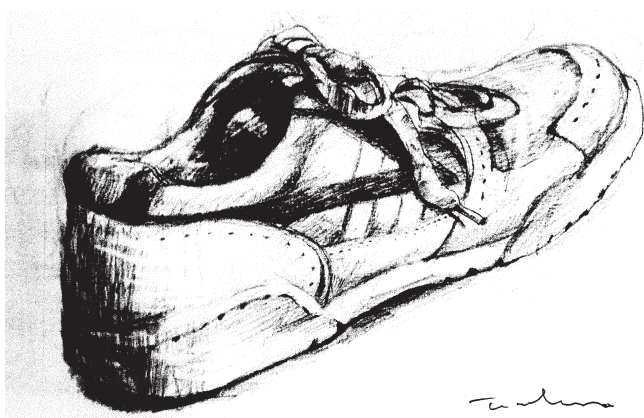
よってはビデオを制作して次のアイテムへ移ることをしてきた。小冊子は、能勢の植物、豊能郡の旧街道と石造物、豊能町西地区の銅鉞山跡の調査、里山の管理、能勢ダイオキシン騒動は何だったか、などである。当地区では度々大火が発生し記録があまり残っていないので、私のデータは割合重宝されている。作成したビデオは、能勢の植物、逆修、五輪塔、丹州街道、能勢街道、妙見参道、キリシタンの里、間歩、吉川の社、里山の日などで、DVDにして図書館に寄贈した。

山野草については、山野をくまなく歩いて観察、同定し、最近の名を知らぬ植物には滅多に出くわさない。豊能町と能勢町の石造物は殆ど全部確認したが、存命中に自分自身を供養して、死後極楽浄土への往生を願う逆修信仰を表す石造物は当地方の特徴的なものである。五輪塔や宝篋印塔ほうきやくたは、時代と共に形態が変化しており興味がある。丹州街道（国道

173号の原型)は池田と篠山を結ぶ旧街道、能勢街道(国道477号の原型)は大阪と京都を結ぶ裏街道である。両者とも時代と共にルートが交っており、旧ルートを仲間と歩いた。これら街道によつて炭は池田へ運ばれ池田炭と呼ばれるようになり、栗は亀山(現亀岡)へ運ばれ丹波栗と呼ばれた。能勢妙見山へは古来参詣が盛んで、表本道、大阪参道、京参道の古いルートが残っている。山腹に点在する間歩(銅鉞山坑道)もくまなく探つたが、当地方には川西市の多田銀山を主とする鉞脈が各所に走っており、江戸時代から盛んに銅の採掘が行われた。荒吹きされた粗銅は大阪の銅座へ運ばれ、これを扱った泉屋が後の住友家である。潜伏キリシタンの里として有名な茨木市千提地区には遺品が沢山あり、これらをルポしてビデオを制作した。

教員時代、先生の専攻は何ですかと問われれば、能勢学ですとさぶいていた。

(春日町出身、大阪府在住)



丹波に育まれた感性

豊かさの源泉、芸術を追求

美術家 野村和弘

歌集「一握の砂」で石川啄木がふるさとに寄せた短歌、「ふるさとの山に向ひて言ふことなし ふるさとの山はありがたきかな」

私はこの一首こそ、悲しいまでに啄木のふるさとへの思い、自然への畏敬の念、そして変わらぬ郷土愛を強く感じます。

人それぞれ、心のふるさとを持ち、時を過ごし時代を生きぬいたその重みと普遍性に共感を覚えます。同じくこの私にとっても、ふるさと「丹波」は全ての原点として、いまなお心のよりどころとなっています。

この度、丹波新聞社小田会長とのご縁



があつて、柏原高校出身の一人として2020年（令和2年）2月厄除大祭協賛

の「絵画展」を開催致しました。コロナ禍ではありましたが多くの地元の方や関係者の皆さんにご高覧頂き、また64年ぶりに母校の地の空気に触れ、少々興奮気味の3日間でした。生涯の大半を大阪で活動し、個展をはじめグループ展など発表する場は幾度もありましたが、郷里に実績を持たない私としては大きなプレッシャーともなっております。どのような

な形で受け入れてもらえるか、皆さんの反応を大変心配しております。ですが「郷に入れば郷に従え」で、いつしか自分も気持ちの上で丹波人になり切って対応していたと思っております。

懐かしい丹波弁を聴くことはありませんでしたが、皆さんどこかシャイで誠実さにあふれ、穏やかであり自己主張をされない気質は、今も昔も変わらず、これが丹波人だと思ふことしきりでした。

結果、作品の良し悪しもさる事乍らアク
ル画の特徴と色彩構成は、私の見ると
ころ皆さん納得してくださったと思いま
した。

ここで少し私の育った家庭環境と大阪
での仕事内容に触れ、紙幅の許される限
り書き記したいと思います。

私が生まれた1938年（昭和13年）
は、日中戦争が激化し苛烈な状況下で、
前年の1937年（昭和12年）2度目の
召集を受けた父は、姫路第39連隊に入隊
しましたが戦地への派遣は、家督相続の
ため兵役免除となつて僅か数ヶ月で帰
郷。除隊後は在郷軍人として山南町岡本
で祖父の始めた諸材木問屋「野村材木店」
と「野村製材所」を引き継ぎ経営してお
りました。

そんな父は、よくお風呂で戦争や姫路
の兵舎での生活のことを話してくれまし
たが、一つだけ生涯気にしていたことが
あったようです。それは入隊していた姫

路39連隊「沼田部隊」が1937年（昭
和12年）の「南京事件」で多くの戦死者
を出し、自分だけは兵役免除で生き残つ
たこと。これについて温厚で誠実な父は、
亡くなるまで心の底で詫びていたようで
す。そのためか、その後無類の犠牲を強
いた第2次世界大戦の記録や広島・長崎
の原爆写真集を沢山残しており、父親の
心情と共にこれらを見聞して育った私
は、大きな影響を受けました。

1945年（昭和20年）私が国民学校
1年生の8月、終戦となりました。その
夏の抜けるような青空と夕涼みで満天の
星空を仰ぎみた田舎の風景は、今でも強
烈に脳裏に焼き付いています。のどかな
山々に囲まれ学校生活も中学・高校と瞬
く間に過ぎ、特に新制の山南中学校では
原田貞夫教諭の指導で堀井隆水君（柏原
高校100周年時の校長）たちと一緒に
絵画クラブを結成、毎日が楽しく思う存
分絵を描くことに集中できました。また

2年生の時、兵庫県展で銅賞を受賞した
ことも励みになりました。

しかし高校では絵画を専攻せず、専ら
独学を通し私淑で画集を見たり、美術出
版社の洋画の技法書を取り寄せ必死で勉
強。そうした中で当時数少ない画集を通
して最初に感動し今日まで深く影響を受
けている画家、それは印象派クロード・
モネでした。新しい時代を切り開き色彩
と光のうつろいを見事に表現した「印
象・日の出」「睡蓮」などの連作の数々
を模写もしながら、小さな作品を描いて
は益々傾倒していきました。

こうして高校生活も3年を終え卒業と
同時に、早く憧れの美術の道に進むべく
出来るなら近くとの思いから、兄の東京
での美術学校への勧めも振りきり大阪を
目指しました。幸いデザイン工房カトウ
スタジオ（遠縁のきりえ作家・加藤義明
氏の事務所）に就職。ひたすらその技術
と絵画の基本を実践させて戴きました。

また天王寺の大阪市立美術研究所に2年間在籍。仕事は絵画とデザイン（当時は図案）の両立で印刷関係が中心。スタジオでは鶴屋八幡、菊正宗スポンサーの雑誌「あまカラ」、阪神「甘辛のれん街」の広告と表紙を扱い、また出版社「六月社」及び「創元社」編集部依頼が主でした。

こうして10年後に私は独立して「アートプロ」を立ち上げ、創元社編集部の仕事を引き継ぎ、本の装丁や図版の仕事を専属で受け、また自費出版の装丁や大阪労音のポスターや予告看板の企画制作、関西芸術座のマークをはじめ各種業界のロゴ・マーク、バッジなどのデザインも引き受け、傍ら市民運動や市民生活協会の宣伝とイベント・ディスプレイの企画・制作も多彩にやってきました。

そうした中で1970年（昭和45年）、大阪万博ソ連館でナウカ社嘱託アートディレクターとして館内店舗のディスプレイを担当し、その年の2月から9月ま

で勤め上げ、少しは国際感覚も養われたかと思えます。そして長年、木津川計主宰「上方芸能」のイベントで、多くの文化人との出会いがありました。近年残念ながら200号で廃刊になり、また一つ大阪の出版文化の灯が消え寂しい思いを致しております。

丁度私が還暦を迎え一区切り付いたところ、絵画への積年の思いを実現。仕事の延長線で始めたアクリル絵画の乾きの速さや発色の良さは、私にとっては好都合でした。特に光を意識し、色のグラデーションや効果的なコンポジションも大変魅力的な世界です。また色彩も時によっては抑制気味に絵画の持つ装飾性を考え、快い作品を出来るだけ多く創作したいと思つて、今はよりスケールの大きな信州の自然を基点に描いております。

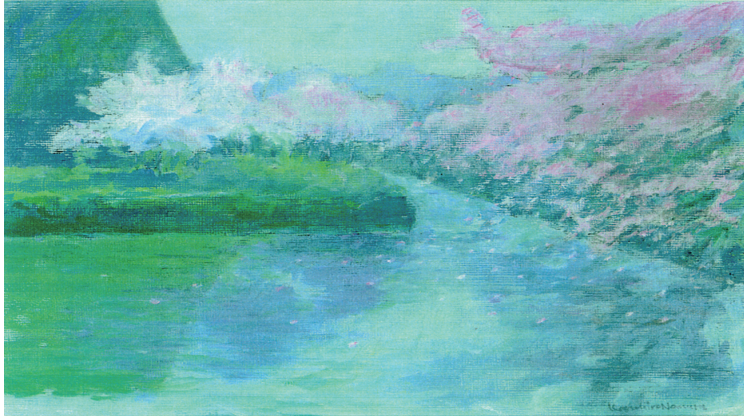
私が約60年前から参加し毎年大阪天王寺美術館で開催されてきた「関西平和美術展」に今年も絵画とデザインポスター

を出品する予定で制作しておりましたが、コロナ感染症が拡大する中で急遽中止となり大変残念なことになりました。

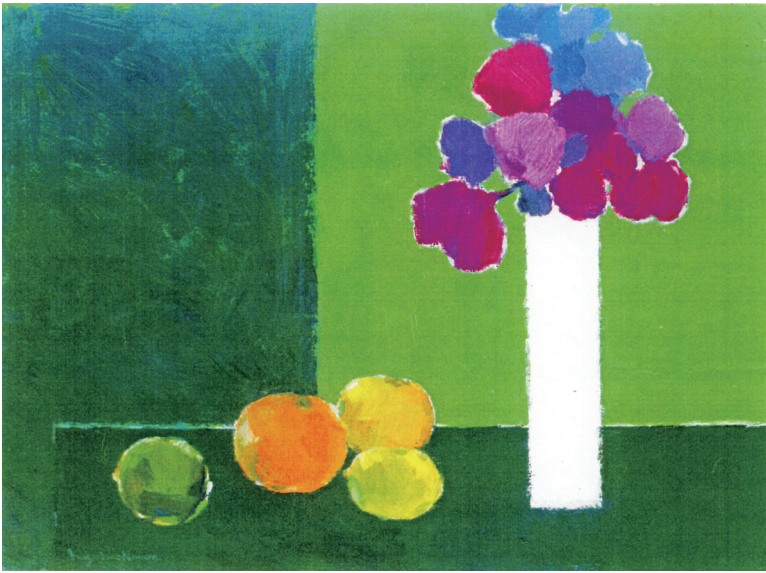
最後になりますが「感性を研ぎ澄ますには、より多くのものを見聞きし場数を踏み、自分の五感で体感することが何よりも大切だ」とプロデューサーの残間里江子さんはある講演会で述べておられます。また「文化や芸術こそが真の豊かさの源泉」だとも力説されています。このことを心情として、私も楽しく創作を続けたいと願っております。

（山南町出身、箕面市在住）

56・57頁に作品



篠山城址公園の桜



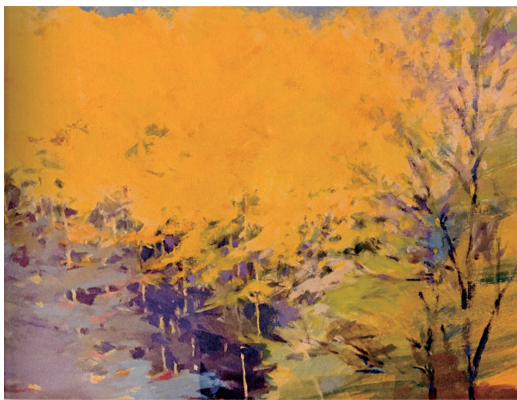
花とオレンジ



雪原



創元社出版物のカバーデザイン



秋色



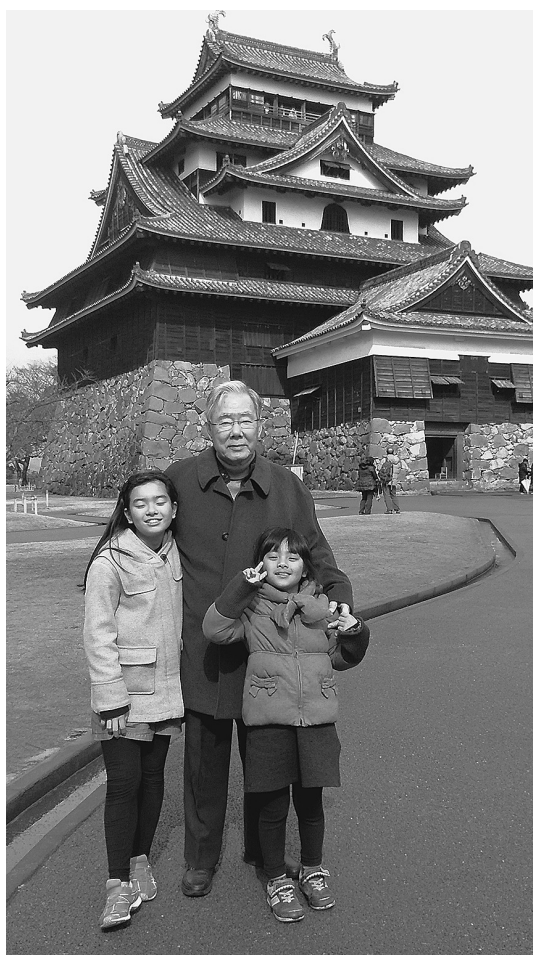
里に咲くサルスベリ

丹波を離れて60年

鳥取に定住し医師に

赤松凱彦

18才で丹波を離れ、以来60年、三人の子育ても含めてそれなりに良く頑張った。生きて来たものだと思います。一人娘と結婚する事になり、結果、漫



松江城で孫たちと

画サザエさんのマスオさん現象で鳥取県米子市に居座ることになりました。義理の祖母・母には随分大事にされました。相当に居心地が良かったのだと思います。

敗戦時、私は2才でした。敗戦国の海軍将校で引き上げ者の家庭はかなり悲惨でした。「腐っても鯛」と言っただけで追われる縁者が居た一方、石つぶてで追われたこともあったように聞いています。父が公職追放の処分を受け、仕事は山に入っただけの炭焼きでした。真っ暗になっただけから父を迎えることもありませんでした。また、父が自転車でキャンデーを売り歩くのに道すがら遭遇した事も何度か記憶にあります。私自身は、ポンと生まれた5人きょうだいの末っ子（橋の下から拾われた話も？）で、両親と兄・姉達にすっかり可愛がられ何不自由なく過ごしました。歳の離れた兄・姉達が出掛ける度に買って来てくれる土産は今も一つ

ひとつ思い出されます。父が手作りしてくれた船の帆布のランドセルは、まことに丈夫で6年間使ってびくともしませんでした。小学校の集合写真には私一人がもんべ姿で写っていて、我ながら微笑えましいと思います。歳の離れたきょうだい達がいわゆる菓立った後は僕一人が家に残りずっと母の側にいました。母を一人占めにして甘えていたんだと思います。

小学校高学年に入る頃、私自身はすべてに絶好調で、先生の依怙贖もあつて天狗そのものでした。中学一年時、当時もてはやされていた小西健二郎氏の「学級革命」の影響もあり、クラス会で僕の横暴振りにしつかりお灸を据えられました。その時の悲しさからの教訓は今後絶対に目立たない、表に出ないと言う心掛けでした。同じ頃、9歳年上の兄が医学部に入学したので私も医師になりたいと思いました。気持ちとは裏腹に学業が追

いつかず相当に焦りました。高校3年間は一切の遊びを絶って勉強に励んだつもりがうまくゆかず受験に失敗する事になります。丁度その頃医師になっていた兄が予備校の準備をしてくれて一年間京都で過ごしました。親は仕送りが大変だったと思います。又、兄が自由に使えるように3万円の入った通帳を渡してくれました。大きな声では言えないけれど、丁度一年で映画とバチンコに消えてしまいました。

大学入学後、皮肉なことに出席番号が一番で慣例によりクラス委員を仰せつかりました。あれほどこの5・6年、目立たない・前に出ないことを心掛けて来た身にとってはかなりの戸惑いでしたが、取りあえずは無難に取り繕いました。入学後4年間は卓球部、又、何かしらの遊びなど持ち前のダラダラで過ごしましたが、そのうち全国的に発生した学園闘争の波が押し寄せました。仲間から何度か

学生運動への誘いがありその都度躊躇していましたが、ある日シユタイン・コップ（石頭）と言われそれがこたえて運動に参加する事になりました。社会主義的思想を背景に若手医師の待遇改善や絶対的権力者の教授に抗い、医局への入局拒否などの青年医師連合の運動でした。今では信じられませんが、無給医が存在する時代でした。ただただこれが正義と言う思いで頑張った運動でしたが、極左の台頭で次第に下火となりました。まさに一部の大人の間で囁かれていたハシカに似たものでした。

僕にとってこの二年間は本当に大変でした。両親は泣かせるし、両親を泣かせたことで兄から勘当を申し渡されました。今にしてもおもえば顔が赤くなる思いですが、ヴェトナム戦争中のヴェトナムに行くかも知れないと言う勢いでした。何にも増して大変だったのが試験への対応でした。試験があるうがなからうが毎

日徹夜のような会議が続きました。えらいものでそれなりに要領を覚え、時間があれば一分を惜しんで試験勉強をして切り抜けました。臨床課程では恐らくトップクラスの成績だったろうと自負しています。更に国家試験の追い討ちがあります。小さな過去問題集一冊を、受験に行く汽車の中でやっと読み終え試験に臨みました。会場内では、他大学の学生達もが国家試験のための合宿してきた声も聞こえ相当びびりました。筆記試験は一切記憶がありません。口頭試問が大変で外科はまずまずでしたが、皮膚科はまさにちんぷんかんぷんで流石にダメだと覚悟をしました。皮膚科の試問の先生が頭を抱える雰囲気なかで、外科の先生が「良く勉強している」と助け舟を出してくれました。その為もあってか結果的に何とか合格しました。

中学時のクラス会の経験に加え学生運動の挫折から、いよいよ目立たない毎日

を心掛けることとしました。ただ毎日コツコツと真面目に診療に務めました。宴会の中で当時の学生運動のことで教授に罵られた事もありました。一番こたえたのは同級生の女性の恨み事の記事がある雑誌で読んだ時でした。しかし別の教授には私たちの頃と比較して今の学生には骨が無いと言って頂いたこともありま

す。
両親と可愛がってくれたきょうだいのうち姉二人、依怙贖肩してくれた先生、又、大事にしてくれた義理の祖母・母みんなが亡くなりました。色いろと悔やんでも悔やみ切れないことばかりです。あちらで許しを乞うことが出来るよう準備したいと思います。

何とか生きてきた78年ですが、大過なく過ごせたことに感謝いたします。総じて幸せでした。出来るだけ孫の成長を見届けたい思いで、これからも元気で人生を楽しみたいと思います。幸い今のところ

嫌がらずに側に居てくれる妻に出来るだけ優しく大切に接し、また妻にすがって毎日を送りたいと思います。

(春日町出身、米子市在住)



関西人の見た仙台

在住55年、地震の感覚も理解

山口 泰 男

私は、大阪の大学を出て、東北は宮城県
の仙台的の大学に就職しました。居心地
が良くて、そのまま仙台に住み着いてし
まいました。在住55年になりますから、
今やほぼ完全に仙台人ですが、関西人の
視点から見た仙台暮らしを考えてみたい
と思います。

仙台の冬

関西から見れば冬は確かに寒いです。
1月の毎日の最低気温の平均はマイナス
1・7度、最高気温の平均は5・3度で
す。神戸では、それぞれ2・7度と9・
0度ですから。

私の恩師は、1945年前後に、仙台
で学生時代を過ごした人ですが、冬の寒
さの表現に「机の上に置いたインクが凍
る」と言っていました。しかし、今はそ
のようなことはありません。地球温暖化
もありますが、住環境が、その頃の劣悪
さに比べて、格段に改善したためです。
冬の寒さという点では、私は柏原高校
の頃に鍛えられました。当時の柏原高校
は朝の始業が7時50分でした。ギリギリ
まで寝ていて急いで朝飯を掻き込み、す
ぐ自転車に飛び乗って家を出るのが7時
30分より少し前（この数分が大事でし
た）、そこから高校までの12キロを必死

に自転車をこいで始業時間に間に合わせ
なければなりません。冬の朝は寒い空気
を切り裂いていくのですが、寒いとかな
んとか言っている暇はありませんでし
た。この時の寒さを考えれば大抵の物に
は耐えられます。

「東北は雪が多いでしょう」と言われ
ることがあります。冬は西高東低の気圧
配置が多いですから、北西の季節風に
よって雪が運ばれます。この雪は奥羽山
脈に当たって日本海側の地域に降ります
ので、太平洋側の仙台なんかは乾いた晴
れの日が続きます。5センチ以上の積雪
で、家の前の雪かきをするのは一冬に数
回です。ただ、冬のニュースには日本海
側の雪の映像が多く登場しますので、東
北と言えば雪の多いところというイメー
ジがあるのかもしれませんが。

以前、大阪から転勤してきた人に「冬
タイヤって何よ」と聞かれたことがあり
ます。仙台では12月から3月一杯ぐらい

まで車に冬タイヤをつけます。凍結した路面で滑らないようにするためです。昔は冬タイヤの表面には鋸がうってあり、

削ってしまい、道路沿いはアスファルトの粉塵が舞い、人々の健康が憂慮される事態となりました。ただ、この鋸は道路のアスファルトの表面も削ってしまい、道路沿いはアスファルト

の粉塵が舞い、人々の健康が憂慮される事態となりました。このため、今はスタッドレス（鋸なし）タイヤです。ゴムの材質の柔らかさと表面のバターンの溝の深さで氷をとらえ、滑らないようにするというわけです。冬の最初と最後でのタイヤ交換が年中行事に組み入れられています。

仙台の夏

仙台の夏はあまり暑くはありません。西側の部屋にはエアコンをつけていますが、主としてお客さん用で、通常はあまり使わずにすん

でいます。夏の基本的な気圧配置は、オホーツク海に高気圧が居座っているパターンで、ここから吹き出してくる風が、冷えた海の上を通過して東北地方の太平洋岸に吹き付けるので、曇り空が多く気温は上がりません。この風を「やませ」と呼びます。この風のおかげで仙台の人達は夏の酷暑から逃れています。ただ、「やませ」が続き過ぎると冷害をもたらします。いつかの年の夏は、8月の天気が毎日曇りだったことがあります。雲の厚い本格的な曇天です。米は完全な不作で、タイ米を輸入するなど、大騒ぎになりました。このとき、約1か月ぶりに、雲の切れ目から見えた小さな青空にホッとしたのを覚えています。やはり夏には青空が似合います。

地震の多さ

東北地方の東方、約350キロのところに日本海溝があり、ここは太平洋プ



松島

プレートがユーラシアプレートの下に潜り込んでいくところ。いつも東南東側からの圧力を受けていて地殻に歪力がたまっています。これがある程度まで溜まると地殻が割れて地震となります。このような地形上の問題がありますから、東

北地方の太平洋側には地震が多いです。10年前の東日本大震災（マグニチュードM9・0）のような、1000年に一度というのがありますが、宮城県沖を震源とするM7クラスの地震は30年周期ぐらいでやって来ると予想されています。M7というと阪神淡路大震災クラスですが、宮城県沖の場合は震源が沖合です。で被害はそれほど大きくはありません。

何回も地震を経験しますと、感覚がわかってきます。家屋の建っている地盤の強固さによって被害が異なります。山を削って造られたところは被害が少ないです。逆に、谷を埋め立てて造られたところは被害が大きいです。地震が起きた時

に、テレビによく出てくるのは地盤の弱いところの大きな被害の映像です。それを見て皆さん驚かれるのですが、地盤がしっかりしていれば、震度5強では、普通に備えていけば大体大丈夫のように思います。

オンライン同級会

やはり仙台は関西からは遠く、高校や大学の同級生に出会う機会は少ないで

す。昨年、東京に居る大学の同級生から連絡がありました。オンライン同級会に参加しませんかというのです。コロナ禍で集まれなくなった首都圏在住者の同級会をオンラインにして開くので地域を拡大したというのです。大阪からも参加者があり、楽しい時間を過ごさせてもらっています。コロナ騒ぎも悪いことばかりではないですね。

（氷上町出身、仙台市在住）



創建千年迎える柏原八幡宮

本殿改修などで募金

丹波新聞記事より



改修工事が行われる柏原八幡宮本殿

毎年2月の厄除祭で有名な柏原八幡宮が3年後に創建千周年を迎える。これを記念し、本殿などの改修のため募金を始めた。厄除祭のメイン行事、「青山祭壇の儀」と合わせて丹波新聞の記事を許可を得て転載する。

本殿などの改修で募金(21年1月31日号) 2024年で創建1000年の節目を迎える柏原八幡宮(柏原町柏原)が、経年劣化により傷みが目立ってきた本殿の屋根や境内の鳥居、参道などを改修する費用の寄付を募っている。同年開催予定の「ご鎮座1000年奉祝祭」に向け、「令

和の大修造」と銘打ち、今年から3年間かけて改修工事を計画している。

同八幡宮は、万寿元年(1024)に京都・石清水八幡宮の丹波柏原別宮として鎮座。現在の本殿は豊臣秀吉によって再建されたもので、華やかで美しい彫刻が施され、桃山時代の建築様式を今に伝える建造物として、国の重要文化財に指定されている。しかし、前回の修造から約50年が経過し、檜皮葺きの屋根は所々で雨漏りが見られるという。

参道も明治44年(1911)に土道から石畳・石段へと造成されて現在に至るが、100年を超えた今、あちらこちらにくぼみやひび割れができ、足場が悪くなっている。

本殿前の鳥居は江戸時代に造られたものの、部材内部が腐っており、全面建て替えが必要という。

寄付目標額は2億円。1万円を1口(1万円未満も可)とする。振込方法は、同

八幡宮境内などに置いている「令和の大
修造趣意書」に添付している郵便払込取
扱票を活用するか、現金書留を利用、ま
たは直接、社務所へ持参する。

寄付額に応じて、芳名の永久保存や、
芳名板、玉垣の設置などの待遇がある。

同八幡宮の千種正裕宮司(72)は、「柏
原八幡宮大神様の御神徳によって日々平
穩に過ごさせていただいている喜びと、
先人たちがつくりあげた丹波が誇る文化
財を将来へとつなげ、形として残したい」
と話している。

同八幡宮(0795・72・0156)。

青山祭壇の儀とは(21年2月14日号)

柏原八幡宮(丹波市柏原町柏原)で今
年も2月17、18の両日、柏原厄除大祭が
行われる。新型コロナウイルスの感染拡
大防止のため、露店の出店や福引は中止
になり、町を彩る提灯を取り付けず、交
通規制もないという異例の大祭となる

が、日本最古の厄除け神事といわれる「青
山祭壇の儀」をはじめとした神事は例年
通りに執り行われる。千種正裕宮司(72)
は「参拝者があるうとなかろうと、厄払
いの神事を執り行うのは神社としての歴
史的使命です」と話している。

江戸時代に柏原藩陣屋が置かれ、栄え
たことから「城下町柏原」と一般に言わ
れている柏原市街地だが、もともとは社
寺の門前にできた町をいう「門前町柏原」
だった。柏原八幡宮が創建されたのは平
安時代の万寿元年(1024)。八幡宮
の周りに人が集まり、住み着き、町が築
かれた。のちに陣屋ができ、城下町とし
ての様相を呈した。

新型コロナウイルスの脅威にさらされている現
代だが、柏原八幡宮の創建には疫病がか
かわっていた。疫病が流行り、干ばつに
苦しんだ柏原の村人たちが土地の神々に
救いを求めたところ、治安3年(1002
3)、「八幡の神として、この地に降り立つ

た」との神のお告げがあり、奇しくも入
船山(柏原八幡宮の鎮座する山)周辺の
3カ所から霊泉が湧いた。湧出を「めで
たいしるし」として後一条天皇の勅意に
より京都の石清水八幡宮から御分霊を勧
請し、丹波国「柏原別宮」として治安3
年の翌年に柏原八幡宮が創建された。

柏原厄除大祭は基本的には、八幡宮本
社と境内にある撰社の厄除神社、八坂神
社の3社の例祭のこと。この中で厄除神
社は全国的にも数少ない神社で、八衢彦
神(ヤチマタヒコノカミ)、八衢姫神(ヤ
チマタヒメノカミ)、久那戸神(クナド
ノカミ)などを祭神としている。千種宮
司によると、八衢彦神と八衢姫神は、道
の辻で人々を守ってくれる男女の神で、
久那戸神は、厄がやって来るのを食い止
める神という。

17日から18日に日付が変わる深夜午前
零時から厄除神社で行われ、厄除大祭の
クライマックスである儀式「青山祭壇の



青山祭壇の儀を執り行う千種正裕宮司

儀」は、往古の「道饗祭」（みちあえのまつり）の遺風を今に伝えるとされる。道饗祭とは、6月と12月に京都の4隅の道上に八衢彦神、八衢姫神、久那戸神を祀った祭事で、魍魅（山中の怪物）や妖

られた3神が厄除神社の祭神であることから、道饗祭の時に登場した神が厄除神社にいわば「常駐」している形となり、1年365日、人々を厄から守ってくれていると言えそう。

物に食物を供して京都に入るのを防いだといわれる。

青山祭壇の儀では、道饗祭で食物を供したように小豆やトウガラシ、干し柿、クチナシの実、カヤの実、タチバナの実などを準備。サカキの木を、シイの木の枝で囲い、「青山」（大きな山の意）に見立てた「神籬」に福をもたらす神や災いをもたらず神など、さまざまな神を迎えて丁重にもてなし、「どうか災いを与えないでください」とお願いする。ちなみに、道饗祭で祀

青山祭壇の儀は、道饗祭のほかに「疫神祭（えきじんさい）」の遺風も引くという。疫神祭は、疫病を流行らせるという神を鎮める祭事。災いが降りかからないことや、疫病を封じることが願った青山祭壇の儀は、新型コロナ禍の今年、格別な意味を持っていると言える。

新型コロナの感染防止のため、参拝者間の距離を開けることを求め、鈴緒を取り外すなどの対策を取る中で行われる今年の厄除大祭。千種宮司は「柏原八幡宮の創建以来、厄除祭は途切れることなく続いてきたので、感染防止に配慮しながら今年も粛々と執り行います」と話している。

柏原八幡宮境内にある摂社の厄除神社。宝暦13年（1763）に建て替えられた。青山祭壇の儀では、災いをもたらす神も迎えることから、俗に「厄神さんの日は天気ぐずれる」と言われる。猫

犬は、兵庫県文化賞を受けた柏原町の彫刻家、初代磯尾柏里の作。厄除神社は全国的にも数少ないという。

青山祭壇の儀行われる(21年2月21日号)

柏原八幡宮の「柏原厄除大祭」の神事で、日本最古の厄除け神事とされる「青山祭壇の儀」が、17日から18日へと日付が変わる深夜午前零時から境内の撰社、厄除神社で営まれた。

青竹とサカキの木を、シイの枝で囲って「青山」(大きな山の意)に見立てた「神籬」^{ひもろぎ}に、さまざまな災いをもたらす厄神を迎えて丁重にもてなし、「どうか災いを与えないでください」の意味を込めて祈願した。

厄神が好むとされるクチナシの実、カヤの実、タチバナの実、小豆、トウガラシ、干し柿といった赤(朱)い食べ物も供えて準備。境内をこうこうと照らしていた明かりが消されると、「青山」の前

で千種正裕宮司による神事が始まった。ピンと張りつめた空気が支配する暗闇の境内に祝詞^{のりと}が響き始めると、参拝者た

ちは無病息災を祈って静かに手を合わせていた。



「多文化共生」を理念に

「アジアの新しい風」の活動

上 高子

「アジアの新しい風」というNPO法人を18年前に立ち上げた。活動内容は、日本語を学ぶアジアの大学生と交流すること。交流校はアジア4か国（中国、タイ、ベトナム、インドネシア）のトップクラスの大学だ。（詳細はホームページをこ



覧ください。「アジアの新しい風」で検索）

設立の動機は、日本人が外からこの国を見ることができるといい、と願ったからで、それは自分自身が日本語教師になってから、生徒の質問に答えべく日本を再学習することにより、ものごとを比較文化的に捉えることが出来るようになったからである。設立にあたって、会の理念を「多文化共生」とした。文化の違いを互いに尊重し、平和に共存しようということだ。

この概念が、時に欧米主導のグローバルスタンダードと相克することにししばしば気づいている。「日本の伝統文化」と

世界標準が相いれないことがあるのだ。

最近の話題では、「夫婦同姓」が日本国憲法の人権に違反していない、という最高裁の判決があったが、夫婦同姓は、家族のきずなを尊ぶ日本の伝統だから、温存すべし、という意見が自民党の保守派をはじめ、熟年男性には多い。最近、新聞紙上で知ったのだが、夫婦同姓が国によって強制されている国は日本だけだそう。それも日本に根付いたのは明治政府によって、西洋に倣って作られたもので、伝統とは言い難いという。これまであった制度や文化を変えたくないのは常に今のままが良い人たちで、彼らは、日本の夫婦同姓は「多文化共生のよいサンプル」と主張している。もちろん私も家族が同じ名前を共有することの良さを全否定するものではないが、選択の余地があってもよいと思う。

ジェンダーの問題はもっとややこしい。日本はジェンダー平等では世界標準

からは120位で、政治・経済での男性優位が著しい。これには日本男性からは反論があるだろう。日本の女性は、家では自由で家計を握っていて、むしろ女性優位である、と。また男女分業の方が効率よく、男性がよく働いたからこそ、日本の経済成長は著しかった、と。私も、専業主婦が日本の家庭の水準を高く保って、料理や家事のレベルが高い、などという意見には肯ける。このようにすべて良いことと悪いことはコインの裏表なのだ。

「#Me too」運動に触発され、日本女性からセクハラ告発が続いているのを苦々しく思っている男性陣の気持ちかわからないでもない。深刻な人権侵害もあれば、そこまで言うか、と思うほど取るに足りない過剰反応もあって、これでは男性がビビッて男女の親しい恋愛関係の成立は難しいのでは、と案ずるほどだ。

「いやよ、いやよ、も好きのうち」などと男性に都合よく解釈されていたこと

もあるごとく、「NOが言いにくい日本社会」の病巣は根深い。NOをいう勇気を幼少からキチンと教育しなければなら

ない、とこの頃つくづく思う。そう言う
と男性からは「相手を傷つけないように
はつきりNOを言わないのが日本の美



幅広い年齢層の会員が自由に考えを述べ合うグループディスカッション



北京の清華大学で開いた日本文学鑑賞発表コンテストで

徳」という反論があった。すべて匙加減で、ことと次第による。

私自身は長く共働きをしてきて、企業社会を体験したけれども、男性と伍して対等に働きたいと思ったことはなかった。家庭生活を楽しみ、子育ての喜びも苦労も両方体験できることの方が幸せだし、男性のように厳しい競争を勝ち抜いてなんぼと思うことが多かった。近年男性にも育児休暇がとれるようになったが、それも人によりけりで、子育ての楽しさよりも、外で競争に打ち勝つのが面白いと思う男性もいるはずだ。

要するに、個々人が最大限生きたいように自由に生きる、多様な選択肢の中で、自己決定ができる、という柔軟な社会が望ましい。つまり文化の違いもジェンダーもはつきり二分できるものではなく、グラデーションであり、日本文化の伝統とか、または世界標準とか、ジェンダーによる選択にも縛られたくない。

個々のケースでは、自分の感受性を信じて、できる限り周りと摩擦が起きないように、よく話し合い、折れ合い、落としどころを見つけていく、というやり方が一番いいのではないかと思う。その時、当時は折れ合うのが半々ではなく、強いほうが弱いほうに少し譲る、ということにしたらどうだろうか。強い、弱い、の基準も難しいが、体力、金力、武力など、いわゆるハードパワーを持つものが、持たない、あるいは少ない者に譲る、という方向である。

実際昨今の世界は、ある意味「弱者」が主張を始めた、と言えなくもない。これまでの「弱肉強食」とは真逆の世界、それこそ未来の人類が目指すべき道であると思う。子供、女性、高齢者、障がい者などを優遇したら社会がもたない、と思う人もいるに違いない。でもよく考えてみれば、若くて今強い人もいずれは老人になるし、今健常者でもいつ障がい者

になるかもしれない。また人より優れた才能や地位にある人も、自分の努力だけではなく、運・不運でそれらがもたらされることの方が多いのではないか。

自分自身をよくよく顧みると、私は二者択一、All or Nothingという考え方が苦手だ。というか、何とか両立という方法がとれないか、常に考えているように思う。それで世界標準とそれぞれ独自の文化が共生できるように、すなわち多様性が実現されるためには、対立する両者の折れ合い点、落としどころ（これを私は「Happy Medium（中庸）」と呼んでいるが）を探り、その時、その場面、にもっとも適した解決法を見つけない、といつも試行錯誤している。それが「アジアの新しい風」になっってくれるよう願っている。

アジア（略称）の活動にあなたのお力をお貸し下さい。連絡をお待ちしています。（氷上町出身、東京都在住）

「峠の茶屋でひと休み」

これからの人生見すえエッセイ集

石橋 順子

2021年3月に「東男に京女、峠の茶屋でひと休み」というエッセイ集を出版した。内容はアマゾンに掲載の「出版社からのコメント」を借りれば次のよう



である。

「戦後、徳島からの疎開先、丹波・鴨庄に生まれ、里山を駆けめぐって育った著者の半生は、日本の戦後復興から経済成長の過程とそのまま重なる。大学闘争の最中に上京、学生時代を過ごし、恋愛、就職、結婚、出産。夫の海外赴任とともにドイツ、フランスで数年生活した。ベルリンの壁崩壊を経験し、現地の大学で学び、ヨーロッパの

文化・歴史に親しむ。帰国後は高校の英語教師として教壇に立ち、いまだに現役。日々高校生たちのみずみずしい感性に触れている。数年前に夫を見送り、いま「峠の茶屋でひと休み」。人生100年時代、子どもを育て、夫を送り、そして……ここからの人生をどう楽しんで生きようかと目を輝かせる女性のエッセイ集。」

私は丹波の市島町鴨庄生まれだが家族は徳島から終戦間近の5月に疎開してきた。父が勤めていたベアリング会社が軍に接収され旧制柏原中学校を拠点とし軍需工場になり父が工場長として赴任した縁で、鴨庄の吉見村長などのはからいで疎開が実現したという。徳島市は7月に空襲を受け、帰るべき家は焼失しそのまま鴨庄に居つくこととなった。疎開者の丹波での生活は大変だったようだが、私はいたって元気で野山を駆け巡り、他家の結婚式やお祭りなどが大好きな忙しい女の子だった。山に囲まれた鴨庄は絵を

書けば、クレヨンの緑色が直ぐ無くなる
ようなところだったが、チャンバラ映画
や赤胴鈴之助、自転車でやって来るアイ
スキャンデー屋さんなどは幼少期の懐か
しい思い出である。

小学校半ばで転校し竹山中学校ではバ
レーボール漬けの毎日、表か裏か分か
らないほど真っ黒な顔をしてボールを
追っていた。柏原高校は汽車通学で、家
が駅近くにあったので汽車が駅に入って
来る時間に家を飛び出し、プラットホー
ムからでなく線路側から白い蒸気を吐い
て停車している汽車によじ登ることもし
ばしば。

大学入試は大学紛争真最中の混迷期に
遭遇した。テレビをつければ東大の安田
講堂の上をヘリコプターがぐるぐる低空
飛行をしていた。学生達が安田講堂の屋
上に立てこもり投石を繰返し、地上から
は機動隊が学生達めがけ放水をしていた
のだ。無事に大阪の大学に入学できたが

大学は封鎖されたままで1年間はまとも
に授業は受けられなかった。学生時代は
下宿生活だったが3回転居し最後の下宿
が「豊楽荘」という名の古い大規模学生
アパートだった。引越先の様子を見
に来た大学の友達が、「掃き溜めにツル
ね」と呟くほどの外見だった。

「豊楽荘」には博士号や司法試験など
を目指し日夜勉学に励む学生たちがいる
一方夜中過ぎても麻雀の音が聞こえて来
るなど様々な学生たちが住んでいた。外
部からの訪問者も絶えず、友人の間にも
知れ渡った存在だった。今年の春、本を
出版してまもなく丹波出身の友人、知人
たちから驚きの事実を知った。この「豊
楽荘」は丹波のある篤志家によって丹波
から都会に出てくる学生たちのために建
てられたものだという。管理人さん（柏
原高校出身）は「豊楽荘」をその方から
受け継がれたオーナーだったという。何
という運命のいたずらか。私は何も知ら

ずにこの学生アパートに引き寄せられて
いたのだ。「豊楽荘」は「掃き溜め」な
どではなく、青雲の志を抱いた多くの学
生たちを長年見守り励ましてきた類い希
な建物だったのだ。

1980年代前半、私は結婚し愛知県
豊田市で幼い子供たちを3人かかえ忙し
い日々を送っていた。ところが1987
年に夫の転勤でドイツの研究所に行くこ
とになった。当時のドイツは東西に分断
されていて、私たちの住むカッセル市は
国境近くであり、1989年にはベルリ
ンの壁崩壊という歴史的事件を目の当た
りにすることになった。その直後、東ド
イツ市民が日用品を買うためトラビとい
う小型の国産車でカッセルにも続々と
やってきた。私たちも車で東ドイツに
行って見たが、工場の機械は錆びつき、
高速道路は継ぎはぎだらけで経済の疲弊
が歴然だった。

ベルリンでは崩壊した壁が辺りに散乱

し、悲惨な歴史の色鮮やかな残骸をいくつか拾って帰った。4年後今度はフランスに転勤になり地中海に面したニース近郊に住むことになった。子供達はインターナショナルスクールに入り、様々な国籍の子供たちと友達になった。この8年間の両国での経験は『ドイツの心、フランスの心』として出版した。



亡き夫と（スペイン・コルドバにて 1990年）

子供達も成長し平穏な日々が続いていたが、やがて人生最大の危機を迎えることとなった。夫が病に倒れ他界したのだ。夫婦の一人がいなくなることは、身の半分が切り取られる思いである。しかし結婚すればいつかそういう時が来る。パートナーが他界するとはどのような経験なのか、その後どのように立ち直ればいいのか。模索しながら分かったことは、死者は物理的にこの世からいなくなっても生者を動かすその行動や生き方に影響を及ぼしており、一緒に未来を作れるというところ。夫と共に今後の未来を作っている。これが今心の支えになっている。

2019年10月東京、湯島天神近くの麟祥院で行われた春日局の「春日忌」に丹波出身の友人たちと出席した。明智光秀の筆頭家老斎藤利三は黒井城主でありその末娘「福」として生まれたが、本能寺の変の結果利三は処刑、「福」は紆余曲折の末、徳川家光の乳母となり大奥で

も実力を発揮した。式典には文京区長、丹波市長らも参列し、凜とした姿の春日局像が設置された。麟祥院の境内には「死後も天下の政道を見守るため」という4か所穴が開いた局のお墓もある。丹波と江戸との歴史的な繋がりに誇りを感じ、後継ぎ問題で家康をも説得した春日局の政治力は現代なら総理大臣のものである。

2020年はコロナの蔓延で身の危険さえも感じていた時、フランスに住む娘がオンライン食事を提案してきた。お互いの食事時間にラインで画像を送り一緒に会話しながら食事するのである。

2021年、未だコロナ禍は収まらないがZOOMや様々なSNSで人と人との繋がりは以前より優しく、強くなった気がする。

（市島町出身、東京都在住）

薬物乱用は繰り返される

一人で悩まず相談を

警察官 藤田 恒

警察官を志して、早いもので三十七年
余りの歳月が流れたが、その殆どを「刑
事」として事件捜査に携わってきた。

殺人事件や贈収賄事件、暴力団犯罪や
外国人犯罪を手がけ、「被害者のための
捜査……」を第一に考え、被害者の心に



薬物乱用ポスター

寄り添い、無念を晴
らす思いで悪と対峙
する日々であった。
そんな私が、昨年、
県警本部の薬物銃器
対策課長を務め痛感
したのが、「薬物乱
用は繰り返される」
ということであり、
「薬物に手を染めた
ら止められない」恐

ろしさを伝えたい思いから寄稿依頼をお
受けすることにした。

犯罪捜査で取り扱う薬物は、覚醒剤・
大麻・MDMA・コカイン・向精神薬等
多種多様にあり、これらを使用、所持等
する行為が法令により禁止、または、制
限されていることは周知の事実である。

規制薬物に化学構造を似せて作られ、同
等以上の薬理作用を有する成分を含有す
る薬物を、「合法ハーブ」・「アロマ」・
「お香」等と称して販売している例もあ
るが、これらには、麻薬や指定薬物等の
違法な成分が含まれていることもあると
判っており、「危険ドラッグ」として対
策を講じている。

全薬物事犯検挙人員に占める構成率を
みると、覚醒剤取締法違反が6割強を占
め、大麻取締法違反が3割強を占めるな
ど、薬物事犯の大半を占めているのが、
「覚醒剤」と「大麻」といっても過言で
はなく、また、検挙人員の約4割が暴力

団構成員等であることから、密売組織や背後に暴力団が関与し、組の資金源になっている実態も浮き彫りになっている。

薬物を乱用した者が凶悪犯罪を起こし、または、重大な交通事故を引き起こすなど極めて危険な現状も見られることから、捜査機関では、薬物乱用者の取り締まりと、規制薬物の多くが海外から流入していることに鑑み、密輸入の阻止等にあたっている。

検挙事例の多い規制薬物である、「覚醒剤」・「大麻」の形状や薬理作用について説明を加える。

覚醒剤は、主に無色または白色結晶粉末や氷砂糖のような結晶形で、静脈注射・経口塗布・吸煙等の方法で体内摂取すると、神経を興奮させ、眠気や疲労感がなくなり、頭が冴えたような感じになるが、効果が切れると、激しい脱力感、疲労感、倦怠感に襲われる。

覚醒剤取締法で検挙された成人のうち、三人に二人が再犯者であり、同法違反で刑務所に服役した、五人に一人が二年以内に再び刑務所に服役している実情からも、再犯率の非常に高い薬物であることが窺える。

一度に大量の覚醒剤を摂取すると、急性中毒により死に至るケースもあり、和歌山県で発生した、覚醒剤を使った殺人事件は記憶に新しいところである。

大麻には、乾燥大麻・大麻樹脂・液体大麻等があり、煙草に混ぜて吸煙摂取すると、酒に酔ったような感覚や、手足に麻痺が現れるとともに、視覚、聴覚、触覚等の感覚が敏感になって思考が分裂し、現在、過去、未来の観念が混乱して、感情が不安定になるなどの作用が見られ、興奮状態に陥って、暴力沙汰や挑発的な衝動的行動にでることがある。

大麻の摘発者は、七年連続で増加の一途をたどっており、昨年は五千人を超え

て、過去最多を更新するなど歯止めがからず、初犯者や二十歳代以下の若年層が占める割合が高いという特徴がある。

増加を続ける要因としては、国によって合法であったり、大麻の有害性を否定し、「煙草ほど害がない」といった誤った情報の広がりから、大麻に対する警戒心が低下したり、会員制交流サイトでの入手が容易になっていることなどが考えられる。

薬物摂取による身体や精神への影響は計り知れず、脳等の中枢神経系に作用するため、血圧上昇や心疾患、肝機能障害等の発症や意識障害を引き起こし、次第に、「誰かに追われている」、「殺される」、「壁のしみが人の顔に見える」といった幻覚や妄想が現れ、時に錯乱状態に陥ることや常道を逸した行動に出るようになる。

苦痛から逃れるために、より強い薬物の効果を求め、慢性的な高揚感や落ち着

く状態を維持しながら、乱用を繰り返す慢性中毒状態に陥り、その果てが、自らの意思では止めたくても止められなくなる「依存症」である。

誰しも、「薬物が違法なものだ」とは解っているが、最初は、「クラブで知り合った人から誘われ、勧められるままに始めてしまった」、「興味本位から手を出した」など罪悪感も少なく、誰かを傷つけるわけでもないし、「周りの仲間はみんな大麻を吸っている」といった、安易な気持ちから抵抗なく受け入れる。

一度覚えた快楽は消えても脳から消し去ることができず、より強い薬理作用を求める耐性から摂取量が増え、更に強い快楽や陶酔感を求めて覚醒剤等の規制薬物に手を染める。

乱用して捕まれば、「薬物を使用して良いことなど何一つない」、「家族を失い、友人が離れ孤独になった」、「何度も止めようとしたが止められない」と言い、乱

用者を抱える家族は、「感情の起伏が激しく人が変わった」、「薬物を買うため嘘をつき、理由を聞くと不機嫌になる」、「毎日が戦いで光が見えず、先のことを考えても希望が持てない」と嘆き、「誰にも相談できなかつた」と口を揃える。

私が、これまで「被害者のため……」との思いから捜査を重ねてきたことは冒頭に記したが、果たして薬物犯罪に被害者はいるのだろうかと考える。

薬物犯罪者が引き起こす問題には、家庭内暴力や家族崩壊はもとより、凶悪な犯罪や重大な交通事故等を引き起こすなど社会全体の問題にも発展しており、本人が身を滅ぼすだけでなく、周りにいる人をも不幸にする罪深いもので、多くの被害者を生んでいるのが実情といえる。

丹波市は、自然豊かで住みやすく、県内でも治安が良いところといわれており、私も出身者として誇りに思い、地域の安全を守るために貢献したいと考えて

いる。

終わりに、薬物犯罪は、あなたの周りでも起こりうる身近な犯罪ということをご理解いただき、薬物の話を耳にすることをや不審な動きに気付くことがあれば、勇気を持って通報していただくようお願いいたします。

兵庫県警薬物通報・相談窓口（覚醒剤）
一〇番（078）361 0110
（春日町出身）

ホワイトハウスに立ち入る

ワシントンDCの思い出

常任理事 山口直樹

思えば随分昔のことになるが1974年6月、東回り地球一周の旅の途上、ワシントンDCに立ち寄った。その時の思い出を書いてみようと思う。



1974年、ホワイトハウス正面玄関前で

ホワイトハウス

今、思い出しても不思議な気がするのだが、アメリカの大統領官邸であるホワイトハウスの中に入った。たまたま、ホワイトハウスの横を通りかかった時、ホワイトハウスの生け垣に沿って、人が

並んでいた。「何してるの？」と尋ねると、これからホワイトハウスの見学会があるとのこと、中を見てみたかったので、早速列に並んだ。生け垣の所には、スピーカーがあつて、当時のニクソン大統領の宣伝をしていた。(ちなみに、当時ニクソン大統領は、ウォーターゲートスキandalで、苦境に立たされていた。そして、この年の7月に大統領を辞任し、後に副大統領のフォード氏が大統領になった。

フォード大統領の第一声は「Nightmare is over! (悪夢は終わった)」だった。しばらく待つと、少人数毎、中に入れてもらった。持ち物検査はあった。また、中でカメラの使用は禁止だといわれた。意外と簡単に入れたのには、びっくりした。中には、歴代大統領の肖像画が飾ってあった。その中で、ケネディ大統領の肖像画だけは、少し斜めから描かれていた。なんでなのかな、と思った。入っ

たのは、ホワイトハウスの東側の入り口からで、正面玄関から出た。そんなに長い時間ではなかったし、押し出されるような感じで歩いたので、じつくりは見られなかったが、調度品などは立派なものが使われていた。当時、日本の総理大臣官邸の見学等というものはなかったと思う。アメリカは、開かれた国だと強く印象に残った。多分、今はそのような見学はないと思う。アメリカ大統領官邸なのだが、意外と小さいと感じた。地上部は小さいが、地下の施設は大きいと聞いたことがある。また、大統領官邸なのに、「マンション」でも「パレス」でもなく「ハウス」というのは、如何にも民主主義国家アメリカだなーと思った。

強大な権力が集中しているアメリカ大統領。しかし、どんなに人気があっても、2期8年しかできない。これは、固く守られている。やはり、民主主義国家か。

リンカーンメモリアル

国会議事堂の前は、「モール」といわれる、広い広場だ。この「モール」は、大統領就任式には、沢山の椅子が並べられて、大統領就任式の会場になる。また、このモールの両側には、「スミソニアン博物館」が沢山並んでいる。その「モール」のちょうど反対側にリンカーンメモリアルはある。リンカーン大統領の大きな像が椅子に座って、国会議事堂を見ている。リンカーン大統領が、常に国の行く末を見守っているのだと感じた。リンカーンメモリアルから国会議事堂の方を見ると、実によい眺めだった。

国会議事堂

アメリカの国会議事堂に行って、驚いた。中に入るのに、誰もチェックしない。中央に大きなドームがあるが、その下で、誰に咎められることなく、行けた。拍子抜けした。日本の、国会議事堂では、

そんなことはない。入るのに、色々と手続きをしなくては、いけない。

これも、多分、テロなどを防止する為に、今は入れないのではないかと思う。平和な時代だったなーと思う。

スミソニアン博物館

ワシントンDCのモールに面して沢山の建物がある。それらの建物は、実に色々な博物館だ。絵画の博物館、航空機の博物館、自然科学の博物館など、ジャンルは実に多様だ。これらを総称して、スミソニアン博物館という。僕は、航空機の博物館と近代絵画の博物館（美術館）に行った。航空機の博物館では、飛行機の実物や、アポロ宇宙船の実物があつた。ここに広島に原爆を落とした「エノラゲイ」の機体も保存してあつた。

近代絵画の美術館では、セザンヌなど、大変有名な絵画がたくさんあつた。写真も撮ってもよかった。また、絵画のすぐ



ホワイトハウス前のラファイエット広場で

前で模写をしている人がいた。当然許可を得ているのだろうが、日本の美術館では、考えられないことだ。小学生が有名

絵画の前に座って、先生？のお話しを聞いていた。小さい子供なのに大変行儀よく聞いていたのには感心した。

アーリントン国立墓地

ここは、正確にはワシントンDCではないが、隣接している。ここに行つて驚いたのは、その墓標の多さと美しさだ。白い十字架が遙か向こうまで整然と並んでいる。戦死した軍人を埋葬した場所だ。こんなにも沢山の人が戦死したのかと、思うと心が痛んだ。また、この墓地の中に、ケネディ元大統領のお墓もある。このお墓は、他と違って、特別扱いだ。場所も広いし、永遠の炎という火がずっと灯されている。これは、彼の夫人だったジャクリンさんの希望だそうだ。

ケネディ元大統領の弟のロバート・ケネディ元司法長官のお墓もここにある。こちらのお墓は、ごく小さいものだ。大統領は、1963年に暗殺され、弟は1968年に暗殺された。兄弟揃って、暗殺されるとは、何という悲劇だと思った。

国際復興開発銀行 (International Bank for Reconstruction and Development) のジュディ・エドストロム。世界銀行の一つの組織。しかし、いわゆる銀行ではない。開発途上国の発展を促す開発をする銀行だ。ここで働いていたJudyを尋ねて行った。彼女とは、1972年の5月、僕が当時勤めていた学校の修学旅行で皇居前広場に行った時に出会った。彼女の職場に行き、写真を撮り、その日の夕方、マンションに行った。夕食をご馳走になった。チキンのフライだったように覚えているが、何しろ英語で会話をしながらなので、食事の味はよく覚

えていない。ウオーターゲイトマンションの近くに住んでいた。

ユニオン駅

ワシントンDCの駅だ。沢山の人が行き来していた。この駅の近くに、グレイハウンドのバス停があった。僕はそこから、長距離バスで、NYに向かった。

ワシントンメモリアル

ホワイトハウスのちょうど南、モールの真ん中にある。リンカーンメモリアルと国会議事堂の中間点。エジプトのオベリスクの形をしているが大きさはずっと大きい。中は空洞で階段があり、そこを登った。大変疲れたが上まで登った。眺めがよかった。

安宿

1泊目に泊まったのは、ナショナルホテルだ。ホワイトハウスの近くにあった。

安宿だったが（多分10ドル、3000円位）、当時の自分にとっては高かった。高いので、ホワイトハウスの北にある、安宿（多分、ユースホステルだったような気がする。）に移った。自炊の設備が置いていた。近くの韓国食料品店で米と缶詰（日本のサバの味噌煮の缶詰）とキュウリの漬け物を買ってきて、食べた。缶詰が大変美味しかったことは、忘れられない。日本にこんなに美味しいものがあるのかとすごく感激した。米は2合？位炊いたが、完食した。生き返ったように思った。しょう油味、味噌味のおいしかったこと。日本に帰って、この缶詰を探した。大変安くてびっくりした。今でもこの缶詰は、僕の大好物だ。

黒人居住者

ワシントンDCは、黒人居住者が多いところだった。国会議事堂を中心にして、NW（北西）、NE、SW、SEと別れ

ているが、NW以外は、住んでいる人はほとんど黒人だった。これは、ワシントンDCはどの州にも属さず、大統領の直轄地で、税金が安いからだと言われたことがある。僕の泊まった安宿も、黒人居住区にあった。

リス

ホワイトハウス周辺を始め、公園には実に多くのリスがいた。都会のと真ん中だ。愛くるしい表情で住んでいるのだが、色々な病気を持っているので触らないように、またエサを与えないようにと注意された。

（氷上町在住）

六社の神輿が集結「丹波竹田祭」

文 吉 見 徳 政
写真 吉 見 富 徳
(表紙の写真も)



六社の神輿が一宮神社に集結



勇壮に練り込む上加茂神社の神輿

◀ 石段を下り一宮神社へと向かう三宮神社の神輿

9月の下旬になると、一宮神社境内、参道並びに旧国道筋に吊り下げられた御献灯に火が灯り、各神社からは奉納太鼓の練習の音が聞こえてくる。祭ムードが一気に高まり、いよいよ10月（体育の日の前日の日曜日）、地域を代表する秋祭りのひとつ、丹波竹田祭の本宮を迎える。

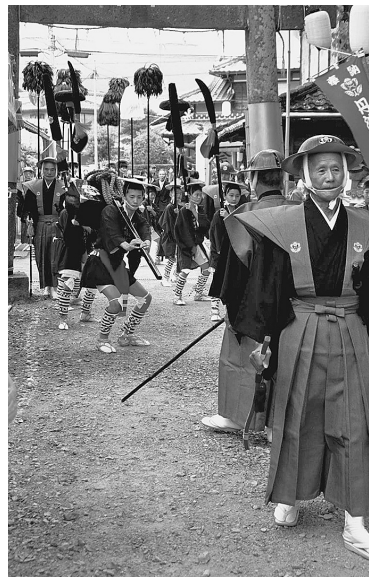
本宮当日には、上竹田、中竹田、下竹田地区の6社（上加茂・中加茂・一宮・伊都奴・二宮・三宮）の神輿が渡御をし中竹田の一宮神社に集結、小中学生による奴行列の先導に続き次々と宮入する。1基1トン以上の神輿が数十人の輿担きの「よーやさー」の掛け声とともに砂埃を舞い上げ練り込む姿はまさに勇壮である。

丹波竹田祭は、古くは「九社祭り」とも言われた。今から100年ほど前に、上竹田の加茂、八幡神社が統合して加茂神社に、下竹田の高野、日附、九日神社が統合して三宮神社となり、6神社から6基の神輿が集まる現在の形となった。

祭のシンボルである神輿は、およそ250年前、京都の上賀茂神社、松尾大社が神輿を新調したときに、それまで使われていたものを竹田地区の住人たちがお金を出し合い譲り受け、京都から担いで持ち帰ったといわれている。

また、その後の調べで、神輿や各神社に保管されている神鏡には約350年前の年号が刻まれたものが複数あることから、丹波竹田祭の起源は少なくとも350年以上前にさかのぼるかもしれないことがわかってきた。

このような歴史と伝統のある祭りだが、巡行経路にあたる国道の通行量の増加に伴い1969年以降は、大幅な縮小を余儀なくされ、一宮神社に各神社の神輿が集結することはなくなっていた。しかし、地元の熱意により、1988年国道を片側通行にすることで神輿の巡行が



地元小中学生による奴行列

認められ復活をとげる。同時に宵宮も設け、本宮でも奴行列や神輿の宮入、さらに近隣のALT（外国語指導助手）らが樽神輿を担ぐ「ふれあいみこし」や子供神輿も加わり、より一層賑やかなものとなっている。

ただし、一昨年は台風、昨年、今年はコロナ禍の影響により、3年続けて神事ごとのみの実施となっており、来年こそは地域をあげ盛大に祭がおこなわれ、伝統の継承と地域の活性化に寄与することを願ってやまない。

編集後記

「もう少しの辛抱」「もう少しの辛抱」

と思つて、2020年の2月から過去して来ました。ワクチンの接種が進み、何とか年末までには以前の生活に戻れるでしょうか。この間、フルメンバーでの編集委員会は開けず、少人数での委員会やメールでのやり取りを繰り返して、何とか第6号の発行に漕ぎ着けました。これには、実にお忙しい中、ご寄稿頂いた多くの皆様、資金面で支えて頂いたスポン

サーの皆様、そして編集に関して専門的な助言を頂いた丹波新聞社の皆様のご支援の賜です。誠に有り難うございました。

たいと思っています。編集委員会で検討しますが、何か良いアイデアがありましたら、ご意見をお寄せ下さい。

表紙の写真は、1号は青垣の今出神社の裸祭、2号は山南の常勝寺の鬼こそ、3号は水上の奴々伎神社の三番叟、4号は柏原の織田祭り、5号は春日の兵主神社の夏越の大祓で、今号の第6号は市島の竹田祭りです。これで、丹波市の旧6

町を巡った祭りシリーズは、一応の完結です。第7号からどのようなシリーズにするのか。故郷丹波に関係する何かにし

会報委員 芦田 敬一 大槻佐知子
小田 晋作 岸田 康博
田中なほみ 田 恭子
仁藤 欽嗣 山口 直樹

名誉顧問	足立	立塚	良久	平喜
“	大岡	崎川	昌泰	三洋
“	中深	田田	充秀	啓雄
“	有田	田田	恭敬	子一
会長	芦田	田田	敬栄	逸郎
副会長	足池	畑尾	廣隆	士司
常任理事	“	磯大	佐知	子博
“	“	岸公	江昭	茂景
“	“	清水	なほ	み行
“	“	田中	晴忠	利樹
“	“	田野	村直	子洋
“	“	山山	口洋	子純
“	“	山山	名立	吾敏
財務理事	足立	立田	立晋	晋作
監事	小田	田田	田田	晋作

関西丹波市郷友会 役員

「賛助金」ご協力をお願い

関西丹波市郷友会では丹波市の青少年の健全な育成のために文化、スポーツ、国際交流、ボランティア活動など様々な分野に支援を行っています。これらの支援活動に必要な資金は皆様方からの賛助金によって賄っています。

今後、支援活動をより一層充実させるために、また1年でも長く継続していくために、下記要領で賛助金のご協力をお願いしています。

つきましては何とぞ趣旨をご賢察いただき、賛助金の振込にご協力、ご支援いただきますようお願い申し上げます。

記

募集要項	法人様 1口 10,000円(3口以上) 個人様 1口 10,000円(1口以上)
振込先	三菱UFJ銀行 <small>たいしょうぼし</small> 大正橋支店(店番789) 普通預金 口座番号 0353273 口座名 <small>かんさいたんばしごうゆうかい</small> 関西丹波市郷友会 <small>かいちょう</small> 会長 <small>ありたひでお</small> 有田秀雄

賛助金と同じ趣旨で、よりご協力をいただきやすい形として下記要領で寄付金でもご協力をいただけます。

記

募集要項	1口 1,000円以上(何口でも結構です)
郵便局から払込	振替口座記号番号 00970-2-95859 加入者名 関西丹波市郷友会
銀行から振込	銀行名 ゆうちょう銀行(金融機関コード9900) 店名 <small>ゼロキョウキョウ</small> 〇九九店(店番099) 預金種別 当座預金 口座番号 0095859 口座名 関西丹波市郷友会
問い合わせ先	関西丹波市郷友会事務局 〒669-3309 丹波市柏原町柏原1747-2 山中 邦雄方 TEL 090-3623-6903 Fax 0795-73-0198 (柏原自治会館内)

広告目次

協賛ありがとうございました。(敬称略)

サンキン……………裏表紙	有田産業……………98
山名酒造……………表表紙裏	エス・ディー……………99
丸十ロッカー……………裏表紙裏	サンキンB&G……………100
中兵庫信用金庫……………86	丹波新聞社……………101
JA丹波ひかみ……………87	円 応 教……………102
敬 愛 会……………88	岡林写真館……………102
小曾根病院……………89	やながわ……………103
武庫川女子大学……………90	土田商事……………103
木 栄……………91	大 仏 堂……………104
荻野建設……………92	清水一級建築設計事務所…104
グリーンライフコーポレーション…93	赤松医院……………105
オフィスキムラ……………94	KABURA 丹波布の店 ……105
丹波総合石材……………95	丹南茶寮……………106
喜 作……………96	たんばコミュニティエフエム ……106
ル・クロ丹波邸……………97	関東氷上郷友会……………107



NAKASHIN

あなたとまちとフェイス to フェイス

中兵庫信用金庫

理事長 足立厚郎

本店・丹波本部 丹波市氷上町成松226-1
TEL (0795) 82-8850(代)

三田本部 三田市けやき台1-4-3
TEL (079) 569-7150(代)

ホームページ <http://www.nakashin.co.jp>

ゆ め
希 望 と



うるおいのある

まちづくり

 JA丹波ひかみ

代表理事組合長 藤原 昌和

〒669-3461 兵庫県丹波市氷上町市辺440

TEL:0795-82-0170 FAX:0795-82-3658

URL: <https://ja-tanbahikami.or.jp>

E-mail: thk.info@jamaill.hyogo.jp

医 療 法 人 敬 愛 会

理事長 大塚 久喜

本部 〒669-1333
兵庫県三田市下内神525-1(三田高原病院内)
TEL(079)567-5107

救急病院	介護老人保健施設
大塚病院	ひかみシルバーステイ
〒669-3641 兵庫県丹波市氷上町絹山513	〒669-3641 兵庫県丹波市氷上町絹山523
医療療養病床	医療療養病床
三田高原病院	三田温泉病院
〒669-1333 兵庫県三田市下内神525-1	〒669-1353 兵庫県三田市東山897-2
介護老人保健施設	介護老人保健施設
三田温泉シルバーステイ	神戸ポートピアステイ
〒669-1353 兵庫県三田市東山897-1	〒650-0046 兵庫県神戸市中央区港島中町5-2-3
介護老人保健施設	療養型医療施設
豊岡シルバーステイ	西宮敬愛会病院
〒668-0065 兵庫県豊岡市戸牧1132番地2	〒663-8203 兵庫県西宮市深津町7-5



医療法人 豊 濟 会

小 曾 根 病 院

許可病床数 **557** 床

介護老人保健施設 やすらぎ

定員数 **84** 床

大阪府豊中市豊南町東2丁目6番4号 06-6332-0135

理事長 中 川 泰 洋

理事 芦 田 昇 治

理事 田 晴 行

理事 遊 佐 裕 子

理事 石 井 笑 子

院長 西 元 善 幸

老健施設長 中 村 幹 男

一生を描ききる女性力を。



■ 中央キャンパス



■ 上甲子園キャンパス（建築学部）



■ 浜甲子園キャンパス（薬学部）



■ アメリカ分校（ワシントン州スポケーン市）

大学

- 文学部（日本語日本文学科、英語文化学科、心理・社会福祉学科）
- 教育学部（教育学科）
- 健康・スポーツ科学部（健康・スポーツ科学科）
- 生活環境学部（生活環境学科、情報メディア学科）
- 食物栄養科学部（食物栄養学科、食創造科学科）
- 建築学部（建築学科、景観建築学科）
- 音楽学部（演奏学科、応用音楽学科）
- 薬学部（薬学科、健康生命薬科学科）
- 看護学部（看護学科）
- 経営学部（経営学科）

短期大学部

- 日本語文化学科
- 英語キャリア・コミュニケーション学科
- 幼児教育学科
- 心理・人間関係学科
- 健康・スポーツ学科
- 食生活学科
- 生活造形学科

大学院

- 文学研究科（日本語日本文学専攻、英語英米文学専攻、教育学専攻、臨床心理学専攻）
- 臨床教育学研究科（臨床教育学専攻）
- 健康・スポーツ科学研究科（健康・スポーツ科学専攻）
- 生活環境学研究科（生活環境学専攻）
- 食物栄養科学研究科（食物栄養学専攻、食創造科学専攻） **2022年4月開設**
- 建築学研究科（建築学専攻、景観建築学専攻）
- 薬学研究科（薬学専攻、薬科学専攻）
- 看護学研究科（看護学専攻）



武庫川女子大学

武庫川女子大学附属高等学校
武庫川女子大学附属中学校
武庫川女子大学附属幼稚園
武庫川女子大学附属保育園

山林をクリエイティブに

一般建築用材・内外装材製造販売
山林再生事業/住宅用地分譲販売



地域の山を守りながら、未来に残したい
くらしの景色を守る木づくりを進めております。

木の事なら住宅や店舗から神社仏閣まで
まるごとお任せください。

〒669-3821 丹波市青垣町桧倉 323-3
TEL:0795-87-5216 FAX:0795-87-5446

<http://www.mokuei.co.jp> 

兵庫県初

本格的CLT工法建築

C — Cross
L — Laminated
T — Timber



(令和3年11月1日 竣工)



荻野建設株式会社

兵庫県丹波市春日町平松217-3 TEL 0795-74-1113

お家のご売却はハウズドゥ！
にお任せください。

- 高価買取
- 広告無料
- 相談無料
- 地域密着
- 秘密厳守

あなたの家。



買取り
不動産

- マンション
- 一戸建て
- 土地
- 収益物件



※ハウズドゥは、不動産売買仲介専門フランチャイズで店舗数全国第一位です。ビジネスチャンス！平成30年8月22日発表。2018年10月号(No.7)2018年度FC加盟店舗数ランキングTOP250より。

即価格提示
致します!!

※一部除外エリア、除外物件もあります

売却物件大募集

ハウズドゥ水谷一之介キャラクター
古田 敦也氏(元プロ野球選手)



HouseDO

☎ 0120-683-700

全国ネットワーク698店舗

仲介
水曜定休

兵庫県知事(1)第750182号 (公社)全国宅地建物取引業保証協会会員 (社)兵庫県宅地建物取引業協会会員 (公社)近畿地区不動産公正取引協議会加盟

ハウズドゥ! 株式会社グリーンライフコーポレーション
丹波店 〒669-4322 丹波市市島町上田503-1

不動産のことなら何でもお気軽に!



無料
査定

買取・売却
物件大募集

不動産を直接
買取致します

物件によっては買取できない場合があります

土地と住まいの相談室

オフィス **キムラ** 株式会社

● <http://www.office-kimura.co.jp> ● E-mail kimura@lily.ocn.ne.jp

● 本 店 ●

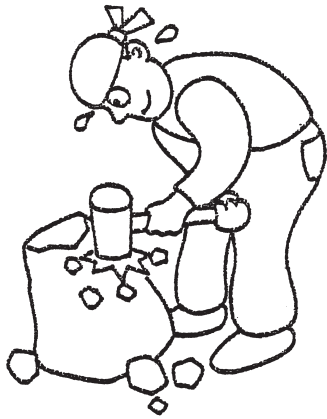
〒669-3465
兵庫県丹波市氷上町横田136番地5
TEL (0795) 80-1500
FAX (0795) 80-1501

● エイブルNW丹波店 ●

〒669-3465
兵庫県丹波市氷上町横田136番地5
TEL (0795) 82-1550
FAX (0795) 82-6700

● 篠山店 ●

〒669-2205
兵庫県丹波篠山市網掛395番地1
TEL (079) 590-1050
FAX (079) 590-1006



あなたの町の
「石屋さん」…
そんな石屋を
めざしています!!

石の事なら何でもお気軽にご相談ください。

墓石・霊園・建築石材・造園石材

(株) 丹波総合石材

代表取締役 堀 公 二

い し や は こ こ よ

 **0120-1480-54**

工場・事務所 TEL0795-72-3032

FAX0795-72-4343

★弊社ホームページは で!



丹波
KISAKU

k i s a k u

ご予算に応じます。

丹波市柏原町柏原77-1(柏原駅前)

電話 0795-72-1044

<http://www.tanba-kisaku.jp>



たんば黎明館

ル・クロ丹波邸

(お箸で食べるフランス料理)

ル・クロ丹波邸 コースメニュー

●ランチメニュー

- ・プチコース 1,980円
- (土日、祝日 アミューズ付) 2,480円
- ・ル・クロコース 3,000円
- ・タンバコース 3,700円
- ・シェフスペシャル 5,300円

アラカルト(単品)
430円～

●ディナーメニュー

- ・ル・クロコース 5,500円
- ・ブイヤベースコース 4,500円
- ・シェフスペシャル 7,200円

※アミューズ(お付きだし)代として
600円別途頂きます。

ドリンク
590円～

各種宴会ご案内 同窓会・歓送迎会・各種お祝い

4名～60名様(1階個室、2階宴会場完備)
送迎付きプランやお客様のご予算に応じてご相談承ります

———— 基本プラン(基本2時間) ————
★コース・テーブルビュッフェ・ビュッフェで提供出来ます。

Aプラン…お一人様 6,000円
前菜、お魚料理、お肉料理、デザート、コーヒー、パン

Bプラン…お一人様 7,800円
アミューズ、冷前菜、温前菜、お魚料理、お肉料理、
デザート、コーヒー、パン

Cプラン…お一人様 10,000円
旬の高級食材を使ったシェフお勧め特別フルコース

*全てのプランにフリードリンク(ビール、ノンアルコールビール、
ワイン(赤・白)・ソフトドリンク)が含まれます。

※価格はすべて税込み

●お祝い事など気軽にお問い合わせ下さい。スタッフ一同でお祝いさせていただきます。



Le Clos

ル・クロ丹波邸

〒669-3309

丹波市柏原町柏原688-3

●ランチ

11:30～15:00(L.O.14:00)

●ディナー

17:30～22:30(L.O.21:30)

ル・クロ丹波邸では
結婚式も出来ます

TEL/FAX0795-73-0096

【休】水曜日〔祝日の場合は営業〕

ENEOSグループ

EMG

有田産業株式会社

代表取締役 **有田 秀雄**

〒553-0002 大阪市福島区鷺洲3丁目1-38

TEL (06) 6451-1649 (代表)

FAX (06) 6451-0580

有限会社 エス・ディー

みなさまの



信頼感 と 顔の見える 安心感

生命保険

終身保険

定期保険

個人年金保険

医療保険

がん保険

火災保険



自動車保険



けがの保険



賠償責任

など

損害保険・生命保険は
エス・ディーにご用命ください

当社は関西丹波市郷友会の
青少年健全育成に協力しています。

各種保険の内容や
事故対応について
何なりとご相談下さい！

東京海上日動火災保険株式会社 損害保険シャパン日本興亜株式会社 代理店

有限会社 エス・ディー 担当：嶋田

〒550-0013 大阪市西区新町2丁目15番地27号 TEL 06-6539-3229

ザンキン B&G 株式会社



代表取締役社長

玉置克臣

取締役会長

田 晴 行

〒550-0013 大阪市西区新町2丁目15番27号

TEL (06) 6539-3281 FAX (06) 6539-1231

建設業者登録 国土交通大臣 第21287号
一級建築士事務所登録 大阪府知事 第5916号
宅地建物取引業者登録 大阪府知事 第41184号

建設事業部（ビルドB） 農芸事業部（グリーンハウスG）

- ・ 建築工事の設計及び施工請負
- ・ 不動産の売買及び仲介
- ・ 農業用施設の設計及び施工請負
- ・ 太陽光発電システムの設計及び施工請負

本 社・関東支店・東北出張所・沖縄出張所



丹波新聞

変わる時代
変わらない思い

水分けフィールドミュージアム
リニューアルオープン

丹波市立水分け資料館を改修した「水分けフィールドミュージアム」(水上町石生)がリニューアルオープン。本州一低い中央分水界「水分け」や、氷上回廊の成り立ち、地形、文化、自然などを、模型や映像、プロジェクションマッピング等を使って、体験しながら楽しく学べる博物館へと生まれ変わる。

株式会社 丹波新聞社

〒669-3309 丹波市柏原町柏原201
tel.0795-72-0530 fax.0795-72-1956

丹波新聞

検索 

週2回(日・木)発行 1ヶ月1,255円(郵送料205円)

コロナ感染の終息を願ひ



えん のう きょう
円 応 教
教主 深田 充啓

〒669-3142
兵庫県丹波市山南町村森1-1
TEL 0795-77-0430
ホームページ/www.ennokyo.jp

創業明治25年(1892年)

岡林寫真館 ®

本店 丹波市柏原町柏原JR柏原駅前
TEL 0795-72-0033 FAX 0795-72-1148

.....一度ホームページをご覧ください.....

www.okabayashi.co.jp/

岡林写真館

検索

地域と共に ふるさと創生

丹波の心を伝える—



丹波素材を使った加工品と和洋菓子

『丹波伝心』、それは『温故知新』……古き丹波の食、食生活、食文化等をも顧みながら新しき時代の中に「丹波」を息づかせたい、そんな願いを込めています。



▲夢の里やながわ 本店

株式会社
やながわ
本社・茶工場 〒669-4124
兵庫県丹波市春日町野上野209-1
TEL 0795-74-0010 FAX 0795-74-2010

株式会社
やながわ
特産加工場 〒669-4124
兵庫県丹波市春日町野上野889-1
TEL 0795-74-0010 FAX 0795-74-2010

夢の里 **やながわ**
本店 〒669-4124
兵庫県丹波市春日町野上野920
TEL 0795-74-0123 FAX 0795-74-2070

夢の里 **やながわ**
福知山店 〒620-0045
京都府福知山市駅前町343 和田ビル1階
TEL 0773-22-2840 FAX 0773-22-2840

風丹
土波
東京春日店 〒113-0033
東京都文京区本郷1丁目35-26
ラフォーレ文京本郷ビル1階
TEL 03-3868-5610

夢の里やながわ

検索



since 1913

株式会社 土田商事

代表取締役 土田 博幸
兵庫県丹波市柏原町母坪409-1

TSP

お取引企業の事業の発展に貢献します

営業部

0795-72-1117



地域のお客様の楽しい生活を応援します

新・文具館

0795-72-1223

ホームページ <https://www.tsp-group.jp>

楽天市場店「ペン屋」 <https://www.rakuten.co.jp/penya/>

心豊かな暮らしにご奉仕いたします

仏壇 仏具 位牌 宗教行事用具

創業大正8年

大仏堂

国道175号線と176号線の交差点すぐ

丹波市氷上町横田(コープこうべ柏原店様前)

お電話代無料

ふくよぶみんな

 **0120-2946-37** へお気軽にどうぞ。

FAX 0795-82-5427



有料老人ホーム・サ高住 **篠山ふく健康支援センター**

令和3年6月1日開所

設計・監理

清水一級建築設計事務所

一級建築士 **清水昭景**

〒669-3131 兵庫県丹波市山南町谷川714-2

携 帯: 090-3429-8097

TEL・FAX: 0795-77-0369

E-mail shimizusekkei0369@athena.ocn.ne.jp



医療法人社団

赤松 医院

内科・循環器科・消化器科(胃腸科)・小児科
リハビリテーション科・漢方取扱い

理事長 赤松暉久

院長 赤松義樹

日本循環器学会循環器専門医
日本内科学会認定内科医
日本医師会認定・認定産業医
日本救急医学会 ICLS 認定
インストラクター・コースディレクター
厚生労働省認定認知症サポート医

	月	火	水	木	金	土	日
予約検査 8:00~8:40	○	○	○	○	○	○	—
午前診療 8:40~13:00	○	○	○	○	○	○	—
往診・検診・検査 14:00~17:00	○	○	○	—	○	—	—
午後診療 17:00~19:00	○	○	○	—	○	—	—

TEL (0795) 74-0080

丹波市春日町黒井478-4 <http://akamatsu-cl.jp>



丹波布と親しみ 工芸と暮らす



K A B U R A

工 芸 の 店 か ぶ ら

丹波布 かぶら

住 所 ■ 〒669-3309 兵庫県丹波市柏原町柏原46

T E L ■ 0795-71-1683

営業日 ■ 金曜、土曜、日曜、月曜

時 間 ■ 10:00~15:30

Facebook / Instagram KABURA

kabura.tambanuno@gmail.com

本格会席・創作料理の店



丹南茶寮

春は山菜、夏は川魚、

秋は栗・松茸、冬は山の芋・・・

丹波の四季をお楽しみ下さい

tannansaryou.com

和食膳所

ミニ同窓会・ご商談にお気軽にどうぞ

和食膳所 丹南茶寮

〒669-2214 兵庫県丹波篠山市味間新92-4

☎(079)590-1020

【駐車場】

有り(無料) - 7台まで

【営業時間】 定休日翌日は17時より

お昼の御食事

11:30~13:30

夕晩の御食事

17:00~22:00

【定休日】水曜

※第4木曜日(変更になる場合有)

代表 鷺尾英紀



たんばコミュニティエフエム

市民のための！ 市民による……
放送局です！

FM80.5MHz

丹波市内で毎日、朝6時から夜10時まで
放送中です。



FM80.5MHz

805たんば

特定非営利活動法人 たんばコミュニティネットワーク

〒669-3461 丹波市氷上町市辺 683

Tel.0795-82-1881 Fax.0795-78-9832 Mail:mail@tanba.info

●インターネットラジオ
(サイマル放送)

または

●スマートフォン

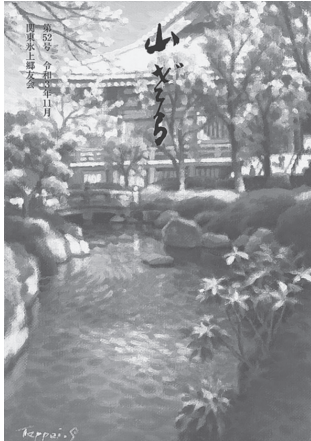
でも聴けます。

皆様のご支援やご参加を
お願いいたします。

詳しくはホームページ

<http://805.tanba.info>

をご覧ください。



会誌「山ざる」52号・年1回発行

柏原町・谷書店にてお求めいただけます。
1冊 ¥550円(税込)

関東氷上郷友会

心と心のおつきあい

ふるさと丹波と関東地域の丹波出身者の心をつなぐ

会誌「やまざる」にご投稿お待ちしております

お問い合わせは事務局迄

最近関東以北の地域に越された方、ご連絡下さい。

事務局

〒351-0014 埼玉県朝霞市膝折町 4-4-30

TEL 048-460-1601 FAX 048-460-2397

ホームページ <http://pcc-taiyo.co.jp/hikami>

本誌広告を募集します

次号(第7号)は、2022年10月末に発行を予定しています。

さらに内容を充実させる計画です。

本誌は皆様方のご厚志にて発行費用を賄っております。何卒ご理解を頂いて、協賛下さいますよう、よろしくお願い申し上げます。

広告費：全ページ 15,000円(税込)

半ページ 8,000円(税込)

申し込み先：会報委員長 山口直樹(090-8936-8471)

関西丹波市郷友会に入会しませんか

関西丹波市郷友会は、旧氷上郡出身者により明治32年(1899)年に創設され、同郷の人々の親睦と郷土の青少年の育成のために、長年に渡って様々な活動を行ってきました。

しかしながら、時代の変遷とともに、会員の高齢化や会員数の減少など本会を取り巻く状況は大きく変わってきています。この時期に当たり役員会では、伝統に甘んじて惰性的に活動を進めるのではなく、丹波市の将来に真に貢献できる方向で活性化を図る必要があるとの認識のもと、平成28年度より新たな試みを始めました。

今回6号目となった会報誌「たんば」の発刊、年次総会の地元での開催、さらには創設120周年記念「丹波すくすく大賞」の募集・表彰など様々な方策を企画しました。出身者だけでなく、地元在住の方々にも大いに関わっていただき情報交換したり議論し合うことにより、人口減少などの困難に直面する丹波市の課題解決に向けて、いささかでもお役に立てる会に発展できればと、願っております。

どうか皆様にも加わっていただき、お力添えをくださいますよう、よろしく願い申し上げます。丹波市出身でなくても、何らかのご縁があって丹波に関心を持たれる方ならどなたでも歓迎いたします。

年会費3,000円を納入いただきましたら、年次総会のご案内、会報「たんば」の送付ほか、本会が催すイベントのお知らせ等々をいたします。

次ページの入会申込書にお名前、住所、電話番号、年齢などを明記してお申し込みください。

寄稿を歓迎します 本誌を郵送料ご負担で送ります。

本誌は年1回発行予定です。次号への寄稿を歓迎いたします。

ご希望の方は会報委員長 山口直樹宛て(0795-82-1651)にご連絡ください。

また本誌(無料)をご希望の方は、下記の事務局(丹波市以外に在住の方)または丹波新聞社(丹波市在住の方)まで郵送料300円(切手可)を添えてお申し込み下さい。

たんば 第6号

2021年11月1日発行

発行 関西丹波市郷友会(会長 有田秀雄)
〒669-3309 丹波市柏原町柏原 1747-2
山中 邦雄 方
Tel.090(3623)6903

Fax.0795(73)0198(柏原自治会館内)

印刷 株式会社 丹波新聞社 Tel.0795(72)0530

年 月 日

関西丹波市郷友会入会申込書

ふりがな	
氏 名	
〒 番 号	
現 住 所	
電 話 番 号	
年 齢	歳
出 身 地 又は縁故地	丹波市 町
紹介者氏名 (会員氏名)	
紹介者がいない場合は、以下にお書き下さい	
丹波市との 関わり	
勤 務 先	会社名
	住所・電話

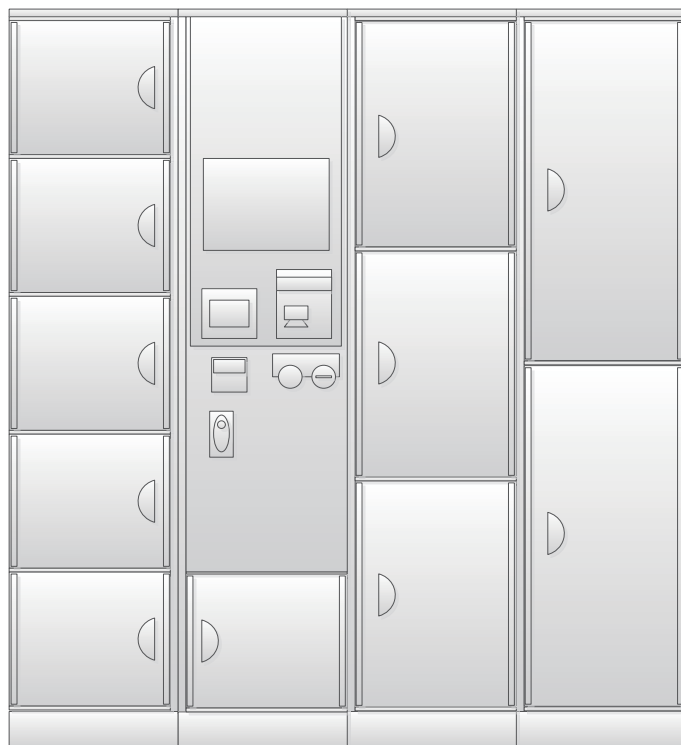
上記の様式をコピーして、FAX または郵送して下さい。
届き次第、入金振込票をお送りします。会費は年3,000円。入会費は不要です。

関西丹波市郷友会 事務局

〒669-3309 丹波市柏原町柏原1747-2 山中 邦雄 方

電話：090-3623-6903 FAX：0795-73-0198 (柏原自治会館内)

お客様の手荷物保管 スペースを創造して半世紀。



since

1966 → Next

コインロッカーの販売・オペレート

丸十ロッカー株式会社

代表取締役 田 恭子

〒664-0858 兵庫県伊丹市西台 4-1-26

TEL:072-772-2654 FAX:072-770-5553

URL:<http://www.marujulocker.co.jp>

契約先 47 社

設置ロケーション数 555カ所

設置台数 4,600 台

設置口数 16,200 口

2019 年現在



ガンキン株式会社



真に役立つ存在であり続けたい

代表取締役社長 田 貴 晴

代表取締役副社長 水 口 純 二

名 誉 会 長 田 晴 重

【当社製品】

- 冷間引抜鋼管
- 家庭用物置
- 物流パレット
- 立体駐車装置
- 車 止 め